



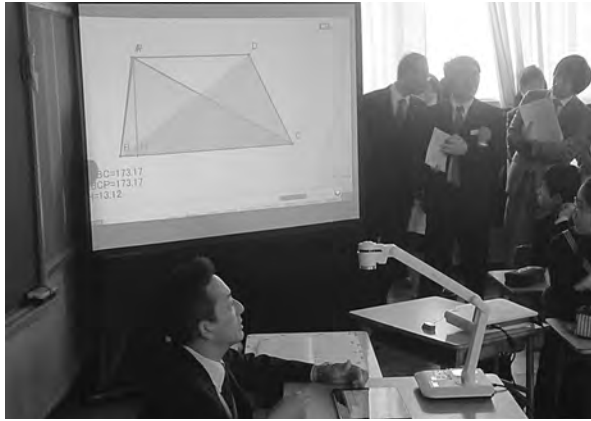
The Society of Education for Junior High, KAGAWA

# 香川県立教育研究会 研究紀要

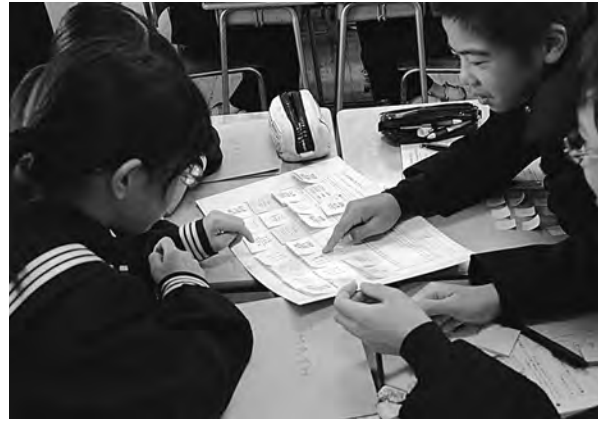
H27  
56

香川県中学校教育研究会数学部会研究大会  
サンポートホール高松・高松市立協和中学校

11月5・6日(木・金)



タブレット端末の利用



付箋の活用



発表ボードの工夫



発表ボードを利用した話し合い



場面設定の工夫



研究発表

---

---

香川県中学校教育研究会特別活動部会研究大会  
高松市立香川第一中学校  
10月23日（金）

香川県中学校教育研究会生徒指導部会研究大会  
三豊市立仁尾中学校  
11月6日（金）



授業風景



提案発表



授業風景



授業風景



授業風景



講演会

---

---



香川県中学校教育研究会メディア教育部会研究大会  
東かがわ市立引田中学校  
11月5日(木)

香川県中学校教育研究会人権・同和教育部会研究大会  
丸亀市立南中学校  
11月6日(金)



開会式



授業風景



授業風景



授業風景



授業風景



授業風景

---

---

香川県中学校教育研究会学校図書館部会研究大会  
まんのう町立満濃中学校  
11月13日（金）



公開授業「絵本の読み聞かせに挑戦しよう」

香川県中学校教育研究会学校事務部会研究大会  
アルファあなぶきホール  
10月13日（火）



研究発表



公開授業「英語で読み聞かせしよう」



参加者の様子



講演「読み聞かせの可能性～自己との対峙～」



指導助言

---

---

# 目 次

## 香川県中学校教育研究会 研究紀要

### 第56号

---

---

グラビア（研究大会の状況）	音楽教育研究会……………22
はじめに	美術教育研究会……………23
香川県中学校教育研究会	保健体育教育研究会……………24
会長 環 修…………… 1	技術・家庭科教育研究会……………25
	英語教育研究会……………26
あいさつ	養護研究会……………27
香川県中学校長会	道徳教育研究会……………28
会長 福崎 彰彦…………… 2	学校保健研究会……………29
	特別支援教育研究会……………30
I 本年度の研究主題…………… 3	へき地教育研究会……………31
	進路指導研究会……………32
II 本年度の研究発表と	学校給食研究会……………33
来年度の研究発表予定…………… 4	
	IV 事業報告
III 研究報告	本 部……………34
1 研究大会を実施した部会	各 支 部……………35
数学教育研究会…………… 5	各 部 会……………38
特別活動研究会…………… 7	
生徒指導研究会…………… 9	V 組織等
メディア教育研究会……………11	役 員……………44
人権・同和教育研究会……………13	予 算……………46
学校図書館研究会……………15	会 則……………47
学校事務研究会……………17	部会運営細則……………48
2 研究大会を実施しなかった部会	香中研研究大会開催地区割り当て計画……………49
国語教育研究会……………19	香中研とはこのような団体です……………50
社会科教育研究会……………20	編集後記
理科教育研究会……………21	

---

---

# は じ め に

## — 生徒も教師も楽しいと感じる授業へ —

香川県中学校教育研究会  
会 長 環 修

平成27年度も、香川県中学校教育研究会の会員の皆様方には、熱心な研究活動に取り組んでいただき、誠にありがとうございました。また、研究発表会を開催いただいた学校及び関係の先生方、大変ご苦労様でした。

今年度は、数学の中国・四国研究大会、特別活動、生徒指導、メディア教育、人権・同和教育、学校図書館、学校事務の県研究大会が開催されました。開催日程に重なりがあったため、参加人数の少ない研究会もあり、開催学校には大変ご迷惑をおかけいたしました。来年度以降の研究大会につきましては、事前の日程調整とともに、各市町教育委員会および各校長の理解を求めて、できるだけ多くの先生方が研究大会に参加できるように努めてまいります。

また、平成25年度よりスタートした、若年研修についても、公立中学校、附属中学校の各1回ずつの研究授業が定着してきました。さらに今年度からは2～4経以外の教員の参加も可能になり、より多くの先生方の研修の機会となりました。来年度以降も、若年教員の授業力向上に努めてまいりますので、各教科部会での授業校決定をできるだけ早期にお願いいたします。

さて、私が所属する数学部会の中国・四国研究大会の折に、講演講師としてお招きしていた先生から「香川県では、自分の教科の授業を楽しみにしている先生方はどの程度いますか」と尋ねられました。とっさに「半分ぐらいでしょうか」と答えました。できることなら「香川県のすべての先生がそうです」と答えられたのですが、実際はどうでしょうか。

「授業を楽しみにして」といっても、いろいろな意味があると思います。生徒がどのように反応するか、生徒とどのようなやりとりができるか、生徒同士がどのように深め合えるか、生

徒がどのように変わるか等、さまざまな楽しみがあります。逆に、これらのことを楽しみと思わずに授業に行くと、全くの義務的な授業で無味乾燥なものになってしまうと思います。できることならすべての授業が、生徒も楽しい、先生も楽しいといえるものにしたいものです。

折しも、次期学習指導要領改訂に向けた動きの中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習としてのアクティブ・ラーニングという言葉をよく聞くようになりました。これからの教育では、学習内容はもちろんですが、それをどう学ばせるかという方法が重視されてきます。教師から生徒への一方的な詰め込み授業ではなく、生徒が中心になって言語活動や体験的な活動を行う能動的な授業への転換が求められています。まさに、このアクティブ・ラーニングこそが、生徒も先生も楽しいと感じられる授業ではないでしょうか。

これまで積み上げてきた授業スタイルを変えることは容易なことではありません。授業観を変えるためには、いい授業を観ることが一番の近道だと考えます。自分の授業とは異なる教師の動き、発言、生徒の反応、変化等を目の当たりに観ることで、改善に努めてもらいたいものです。そのためにも、香中研での授業研究の機会を大切にさせていただけたらと考えています。

最後になりましたが、香中研の研究活動に対してご指導・ご協力をいただいております香川県教育委員会、各市町教育委員会、香川県中学校校長会、香川県教育会をはじめ教育関係機関の方々に対してお礼を申し上げますとともに、次年度も本会のさらなる発展・充実のため、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。



# あ い さ つ

## — 次代を担う生徒の育成 —

香 川 県 中 学 校 長 会  
会 長 福 崎 彰 彦

香川県中学校教育研究会は、全県の若年教員からベテラン教員までが一緒に研究を行い、熱心な研究協議を通して指導力を向上させ、ひいては生徒の学力向上を目指しています。堅実な研究体制により、先輩方が築かれてきた指導方法や技術が確実に継承され、本県の教育向上・発展に大きく貢献しています。香中研の充実・発展にご尽力いただいている会長様をはじめ、各部会の先生方の献身的な取組に感謝を申し上げます。

これからの香川の教育発展のために、香中研の先生方に二つお願いしたいと思います。

一つ目は「グローバル化に対応できる生徒のコミュニケーション能力の育成」です。本校のことで恐縮ですが、11月にインドネシアのバリ島の隣にあるロンボク島の中学2年生女子3名が来校しました。彼女らの学校は生徒数が多く教室が足りないので、午前の部と午後の部に分かれて授業が行われているそうです。2年生の授業見学と音楽の授業に参加してもらいましたが、各教室に入ると授業(英語、数学、家庭科)に積極的に参加し、本校の生徒に英語でどんどん質問をするなど、その前向きな姿勢に驚かされました。彼女らは、将来、日本へ来て多くのことを学びたいと夢を語ってくれました。

このように同じアジアの子供たちが、目標をしっかりと持ち、学習環境が十分でない所でも、一生懸命努力している姿を見て、日本の子供たちにコミュニケーション能力や語学力を身につけることは急務であると感じました。私たち教員が、グローバル化への意識を強く持って、指導に当たる必要があるとあり、今指導しなければ、将来日本の子供たちがアジアの子供たちに負けてしまうのではという危機感を感じました。

二つ目は「教員研修会への積極的な参加」についてです。教員の大量退職・大量採用によ

り、若い先生方が増え、夏の香中研夏季研修会では若返りが進み、活気のある研修が行われました。各部会で世代交代が順調に行われていることを嬉しく思います。しかし、九教科の夏季研修会の参加率の平均は69%でした。年一度の教科研修会は、現在の研究の方向性や、次期研究発表校の研究内容等を知る上でとても有意義な会であります。この日は出張が認められ、夏季休業中で学校に支障をきたすこともありません。生徒の学力向上には、教師の指導力向上が一番大切であり、向上を目指し研修を深めることが不可欠です。香川県教育委員の本田展稔氏(段ボール会社経営)の講演で「中小企業が生き残るためには、新しい発想で製品を作らないといけない。だから、同じ事を繰り返していたのでは発展はない。」というお話を拝聴しました。このことは、学校教育にも共通する部分があります。社会の急激な変化により生徒たちを取り巻く環境が大きく変わってきています。生徒たちが将来の変化に対応できる力を育成することこそが、今の学校に求められていることです。そのためには、先生方の研修が不可欠であり、香中研での研修の機会は、先生方が共に向上できる大きなチャンスだと思います。今、学校では様々な課題を抱えていますが、一緒に考え、議論していくことが、香川の教育全体の問題解決や向上につながっていくと考えます。

香中研は、設立から半世紀の間、それぞれの時代に求められた課題の解決や将来に必要な能力の育成に努力してきました。変化の激しい現代社会においては、20年先、50年先がどんな時代になるかを想像することが難しいと言われています。しかし、どんな時代になろうとも、自ら考え判断していく力が身に付いていれば、きっと乗り越えていけると思います。次代を担う生徒の育成をよろしくお願いいたします。



# I 本年度の研究主題

## 1 研究主題（平成24年度より継続）

### 教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、 学校の教育力を高める研究会活動

（キーワード） 継承・改善 研究体制 授業力 資質能力

## 2 研究主題設定の理由

本会は昭和36年に発足し、県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言、支援を受けながら、また連携を図りながら本県の中学校教育の振興に大きく寄与してきた。本会を今後さらに充実・発展させるためには、次の3点の課題を解決する必要がある。

- ① 現在、教員の高齢化と大量退職（現行制度では平成24年度からの10年間に約40%の教員の退職）に伴い、学校現場において、ベテラン教員の専門的な知識やスキルの伝承が課題とされている。また、各支部・部会における実質的な担い手が学校においても主要な役職にあるなど高齢化が問題となっている。今後、平成33年度を目途にスムーズな世代交代を図り、研究方法や組織運営のスキル等を次の時代を担っていく若手教職員に確実に伝えていく必要がある。（継承・改善）
- ② 研究会離れの傾向は今に始まったことではないが、学校現場の多忙化や、各支部の研究会において、研究授業者や実践発表者等の決定に苦勞することも珍しくない。各教職員が進んで実践発表を行うなどの姿勢は、引いてはそれが学校の活性化にもつながるものである。今後、各学校において、教職員の研究会活動への積極的な参加を促すなど、研究会の役割と意義の自覚が求められる。各支部・部会における研究活動の成果や課題を教職員自らの実践としてさらに反映されるとともに、今後は、各学校において成果や課題を共有し合う場を設定するなど、香中研の研究活動を学校の教育活動に生かす研究体制の更なる充実を図る必要がある。（研究体制）
- ③ 「授業が変われば、生徒が変わる」と言われるように、時代が変化しても授業力の向上は必要不可欠である。香中研として、授業力の研究を中心に教師の資質能力に着目した研究を行う必要がある。平成26年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査における教員研修及び教職員の取組に関する結果では、全12項目中5項目全国の割合を上回り、残り7項目中2項目のみ下回るなど校内外の研修が

改善傾向にある。一方、言語活動に関する結果では、12項目中1項目のみ全国平均を上回り、残り11項目中5項目が全国平均を大きく下回っていた。この結果をうけ、すべての教科で言語活動等の充実による思考力・判断力・表現力等の育成を図る必要がある。（授業力）

こうした現状と課題から、学習指導要領の完全実施となる平成24年度からの香中研の研究主題を、教職員の資質能力1の向上や学校の教育力の向上とするなど、これまでの生徒像を改め、個々の教師像や学校像とすることで、香中研の自主研究団体としての性格をより明確に打ち出し、加入する全教職員、全中学校に研究会の一員であることや役割の自覚を促し、研究会活動の活性化を図りたい。（資質能力）

## 3 今後の研究推進について

本会が目的とするところは、生徒に生きる力を育てるために一人一人の教職員が、各支部・部会での研修等の活動を行うことで、個として高めた意欲や知識・技能が学校現場に反映され、学校が組織として機能する力として高められることである。したがって、本研究主題は、研究会活動とそれを生かす学校教育の在り方も視野に入れたものである。そこで、次の点に重点を置きながら、各支部・部会で計画的に実践していくこととする。

- ・ 研究の継続性を図るため、本研究主題を平成29年度まで継続する。
- ・ これまで各支部・部会で研究実践してきた指導法の研究を継続、発展させながら、ベテラン教職員から若手教職員への指導法等の継承を図る。
- ・ 継承の視点で見直した各支部・部会の研究体制の基、授業に関する実践的研究等を組織的に行い、改善の視点から研究の成果と課題を明確にする。

注釈1 本研究主題で用いる資質能力は、主として「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」（平成17年10月中央教育審議会）で示された以下のものとする。

【教職に対する強い情熱】

○教師の仕事に対する使命感や誇り ○子どもに対する愛情や責任感  
○常に学び続ける向上心 など

【教職の専門家としての確かな力量】

○こども理解力 ○児童・生徒指導力 ○集団指導の力  
○学級作りの力 ○学習指導・授業作りの力 ○教材解釈力 など

【総合的な人間力】

○豊かな人間性や社会性 ○常識と教養 ○礼儀作法をはじめ対人関係能力  
○コミュニケーション能力 ○教職員全体と同僚として協力していくこと など

## Ⅱ 本年度の研究発表と来年度の研究発表予定

### ■平成27年度 香川県中学校教育研究会研究大会一覧

番号	部会名	期日	郡市	会場校	規模	大会主題
1	数 学	11月5・6日 (木・金)	高 松	サンポートホール高松 高松市立協和中学校	中四	数学的思考をはぐくむ算数・数学的活動の展開 ～話し合いの場を設けた授業の工夫～
2	特別活動	10月23日 (金)	高 松	高松市立香川第一中学校	県	よりよい生活や人間関係を築く力を育む特別活動の 創造 ～自他を大切にし、認め合える人間関係づくりをめ ざして～
3	生徒指導	11月6日 (金)	三 観	三豊市立仁尾中学校	県	豊かでたくましい心を育てる生徒指導のあり方 ～自尊感情と規範意識の高揚を目指して～
4	メディア教育	11月5日 (木)	さ 東	東かがわ市立引田中学校	県	生き抜く力をはぐくむためのメディア教育の在り方 ～学ぶ力の習得を目指して～
5	人権・同和教育	11月6日 (金)	丸 亀	丸亀市立南中学校	県	自尊感情を育て、共に支え高め合い、 ～差別解消をめざす生徒の育成～
6	学校図書館	11月13日 (金)	仲 善	まんのう町立満濃中学校	県	豊かな心と学ぶ力を育てる図書館教育 ～本に親しみ、本を楽しみ、本を活用できる生徒の 育成～
7	学校事務	10月13日 (火)	高 松	アルファあなぶきホール	県	これからの学校事務の果たす役割を求めて ～新しい時代の教育環境づくり～

### ■平成28年度 香川県中学校教育研究会研究大会一覧

番号	部会名	期日	郡市	会場校	規模	大会主題
1	社 会	11月11日 (金)	丸 仲	丸亀市立 東・西・南中学校 オークラホテル丸亀	四国	未来社会につなぐ社会認識の構築 ～授業力の継承、そして創造～
2	道 徳	10月25日 (火)	坂 綾	坂出市立坂出中学校	県	豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育 ～つながりを大切にした道徳の時間の工夫～
3	学校保健	11月1日 (火)	高 松	三木町立三木中学校	県	未来をより健康に生きるための保健教育の創造 ～生徒の気づきを促し、確かな健康観と実践力を育 てるための指導の工夫～
4	特別支援教育	11月10日 (木)	小豆さ東	高松テルサ	県	長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育を めざして
5	進路指導	11月8日 (火)	三 観	三豊市立高瀬中学校	県	キャリア教育の視点に立った、活力を育むカリキュ ラムの創造 ～キャリアの自覚を促す教科・教科外のユニット化～
6	学校給食	11月4日 (金)	高 松	高松市立山田中学校	県	豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむ食育のあり 方 ～学校給食における「生きた教材」を活用した指導 力の向上をめざして～

### Ⅲ 研究報告

#### 1 研究大会を実施した部会

## 活用する力をはぐくむ数学教育の展開

～ 話し合いの場を設けた授業の工夫 ～

数学教育研究部会

### 1 研究主題について

近年の国際学力調査（PISA, TIMSS）や全国学力・学習調査において、基礎的・基本的な知識・技能に関する結果は良いが、それを日常生活や発展的な学習等に活用する力が十分に育っていないことが指摘されている。一方、県下の状況は全国・学力学習調査において、平成20年度頃には全国でも上位の結果であったが、平成26年度の全国と香川県の平均正答率の差は、数学A数学Bともに全国平均よりほんのわずかほど上回っている状況である。個々の問題を見てみると、正答率が全国平均より3.9ポイントも低くなっているものさえある。

また、ここ数年の質問紙の結果は、「自分の考えや意見を発表することは得意か」「話し合う活動をよく行っていたか」「数学で、もっと簡単に解く方法はないか考えるか」「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」などで、全国平均よりも大きく下回っている状況である。

そこで、本研究では活用する力を、「身につけた知識・技能を基に自ら考え、判断し、表現しながら課題を解決する力」ととらえ、その具体として「学習によって身につけた知識・技能を生かして自ら考える」「根拠を明らかにして、筋道を立てて考える」「自分の考えを分かりやすく説明したり、お互いに自分の考えを伝え合ったりする」ことと考えた。この活用する力をはぐくむためには、個として学ぶだけでなく、生徒どうしが学び合い磨き合う力を高めることができる授業を行う必要がある。話し合い・学び合い活動を行うことで、知識・技能の定着を図るだけでなく、活用する力をはぐくむことができる。そして、身につけた活用する力は「生きる力」の礎となると考え、大会主題サブテーマを話し合いの場を設けた授業の工夫とした。

### 2 研究の概要及び大会内容

#### (1) 夏季研修会

中国・四国大会の中学校部会で全体提案を行う高松支部による研究発表を行い、県教委事務局義務教育課の黒川統夫主任指導主事に指導・助言をいただいた。次に、5つの会場に分かれて、公開授業の検討と分科会発表の検討を行い、指導者の先生方に指導・助言をいただいた。

#### (2) 香中研数学部会研究大会（第48回中国・四国算数・数学教育研究（高松）大会）

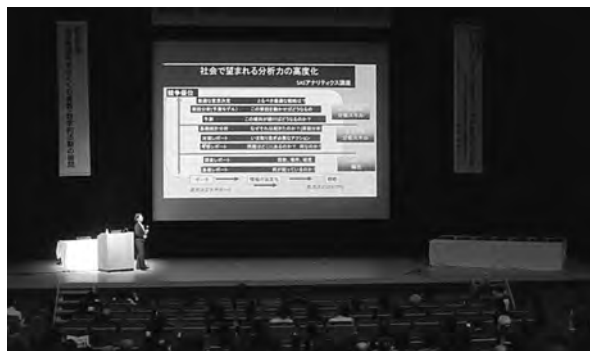
<大会第1日> 会場 サンポートホール高松

##### ① セッション1（生徒による研究発表）

小・中・高校生による研究発表が行われた。中学生チームとして坂出市立岩黒中学校の生徒5名が参加し、「ふるさと岩黒島を見つめて」と題して、岩黒島の現状や魅力を他の地域の人に発信するために、統計グラフや表を利用して、比較・分析を行い、その成果を発表した。

##### ② セッション2（全体講演）

「統計を活用した探求力・問題解決力と判断・意思決定力の育成ーグローバル社会が目指す21世紀型スキルー」と題して、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 渡辺美智子先生の講演が行われた。



<大会第2日> 会場 高松市立協和中学校

##### ② 公開授業

「比例の利用」……大出真由美（協和中）



- 「穴埋めパズル」 桑原一徳, 山本新太郎  
 (牟礼中)
- 「平行線と面積」 ……益田健二 (協和中)
- 「多角形の角」 ……蓮井栄司 (桜町中)
- 「いろいろな関数」 ……山下裕平 (協和中)



### ③ 分科会

5つの分野で、各4本の発表があった。ここでは香川県の発表について述べる。

ア 教育課程・学習指導法「活用する力をはぐくむ数学教育の展開－説明し伝え合う活動を通して表現力を高め理解を深める授業の実践－」 中澤克彦 (坂出東部中)

場面設定や表現力を高める手立ての工夫をした説明し伝え合う活動を取り入れた授業実践についての研究を進めた。

イ 数と式「文字式を使った証明の指導－文字式の有用性を実感させる数学的活動のあり方－」

石井聖樹 (三豊中) 曾根亜由美 (三野津中)  
 文字式の有用性を生徒が実感できるように、文字による論証指導を充実させるカードによる数の一般的な表し方や授業展開のパターン化を取り入れた数学的活動についての研究を進めた。

ウ 図形「基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざして」 山下司 (さぬき南中)

基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるために、図形領域にかかわる既習事項のつまづきを把握・分析し、その結果を踏まえた学習指導法の改善についての研究を進めた。

エ 関数「数学的活動を位置付けた関数指導－生徒の主体性を育てる授業展開－」

岡原秀和 (満濃中) 山本和博 (善東中)  
 既習の知識を用いながら、課題解決を図る

うとする生徒の育成をめざして、各学年のおおまかな学習指導の流れを統一し、3年間を見通し一貫した学習指導の実践と数学の必要性や有用性を一層感じることが出来る数学的活動を取り入れた授業実践についての研究を進めた。

オ 「活用する力をはぐくむ数学教育の展開－『資料の活用』における指導の工夫－」

坂井建太 (綾歌中)

活用する力をはぐくむためには、活用段階の授業の充実を図る必要がある。そこで、時数を十分に確保するために、小学校での既習内容も考慮し、中学校で身につけなければならない力は何かを考え、精選することで習得段階の時数削減を図ることが出来るような指導計画やその指導内容の工夫についての研究を進めた。

### ④ 部会講演

「数学学習におけるICTを利用した学びの展開－作図ツールを使って、授業はこう変わった－」と題して、愛知教育大学教育学部 飯島康之教授の講演が行われた。

講演の内容を大きく分けると次の4つにわけられる。「大画面をライブ感覚をもって使うこと」、「タブレット端末の未来性と未熟性」、「うまく生徒にゆだねることで、学びを生み出す」、「『想定外』のことも楽しみ、生かすことでライブ感のある授業」である。ICTを実際に活用している授業の先行事例の紹介や実際にタブレット端末を参観者が操作してタブレット端末でどのようなことができるかを例示するなど、具体例を交えながら示唆に富んだ内容であった。

## 3 成果と課題

生徒の活用する力をはぐくむ研究を進めてきた結果、生徒のアンケート結果や課題における取組などから、生徒が自らグループをつくって自分の考えを説明したり、他者の考えを聞こうとしたりするなどの様子が見られ、教師も手ごたえを少しずつではあるが感じ始めている。今後も生徒が主体的に取り組むことができるように数学的活動の充実に努めていきたい。

# 自他を大切にし、認め合える人間関係づくり

～ 特別活動を軸にして ～

特別活動研究部会

## 1 研究主題について

本校は、高松市の南部の農村地域に位置し、高松市のベッドタウンである。生徒数658名、20学級（各学年6学級、特別支援学級2学級）、教職員46名の中規模校である。

生徒は、概ね明るく開放的で学校行事や部活動に意欲的に取り組む。その一方、自分の気持ちを表現したり、相手の気持ちを想像できにくかったりする生徒や、人との意見の衝突や軋轢を避け、あえて自分の意見を言わない生徒もいる。全国や県調査では、「住んでいる地域の行事に参加する」、「自分によいところがある」、「将来の夢や希望を持っている」という項目が、全国や県平均を下回っており、積極的に人とかかわりながら自分を高めていく力を伸ばす必要がある。

本校がめざす教育を行うには、特別活動を軸に研究実践し、その成果を教科指導や道徳教育、部活動へと広めていくのが適当と考えた。

本校が「自他を大切にし、認め合える人間関係づくり」を行った成果として、次の3点をめざした。

- 「覇気と秩序のある学校」にすること
- 生徒一人一人が「志」をもち、「絆」と「自信」をもって学習や部活動等に励み、「自分を高める力」と「人とかかわる力」の備わった生徒を育てること
- 感動のある教育活動の連続にすること

## 2 研究の概要

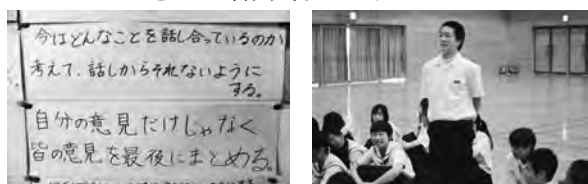
- 話の聴き方・話し方のスキルの指導の工夫
- 自己決定のための話し合い活動の工夫
  - －話し合い活動を通して共感と客観化で自己の考えを強める実践－
- 「かかわる力」と「自分を高める力」を伸ばす評価の工夫－「自分の成長」と「友達との人間関係」に焦点を当てた自己評価・他者評価の実践－

○ 話し合い結果の見える化（掲示）の工夫

(1) 話の聴き方・話し方のスキルの指導の工夫  
学級活動の話し合い活動では、話す（自己表現）と聴く（他者理解）が結び付き、所属感や連帯感の高まりの中で自己決定や合意形成を行うところに学びの特質が表れる。本校では第1学年の学級活動を中心に、話し合う前提として、学年の活動内容に即して個々の生徒に話し方や聴き方を意識させたうえで話し合い活動をさせた。そうすることで、互いの意見や考えの相違点を理解したり、互いの気持ちを察し合い、その良さを理解し合ったりできるようにした。

第3学年では、安心して積極的に考えや思いを出し合える雰囲気づくりが大切であると考え、導入段階においては、＜資料1＞の話し合いの約束事を確認し合い、自分たちで意識して話し合いの雰囲気をつくることのできるようにした。

3年生は、それまで学校行事や部活動、将来の進路等について、互いの考えや思いを語り合う学年集会を複数回、学級ではさらに多くの話し合い活動の場を経験している。本実践は、学校行事との関連を図り、最後の運動会に取り組む意欲を最大限に高めるために、「一中ソーラン」についての思いを語り合った。



＜資料1＞

(2) 自己決定のための話し合い活動の工夫

【話し合い活動を通して共感と客観化で自己の考えを強める実践】

- ① 学級活動と学校行事を結び付けて
  - －1年団種目「台風の日」－
  - －2年団種目「魔法のじゅうたん」－
  - －3年団種目「一中ソーラン」－
  - －学級づくり・学級宣言－
  - －合唱コンクールへの取組－

など、学級全体で取り組む行事で繰り返し行った。

(3) 「かかわる力」と「自分を高める力」を伸ばす評価の工夫

【「自分の成長」と「友達との人間関係」に焦点を当てた自己評価・他者評価の実践】

能力の形成には、振り返り活動を行うことが大切であると考え、その際、「自分の成長」と「友達との人間関係」の観点から、自然な問いかけになる形での振り返りカードを作成して自己評価・他者評価とした。

(4) 話し合い結果の見える化（掲示）の工夫

話し合い活動が学級の連帯感を高め、生徒の自主的な取組への意欲につながるようにするには、常に話し合い結果が見える形（掲示物）で示すことが重要であると考えた。その掲示物が生徒の活動の指標となり、結果的に満足いく活動ができれば感動を呼ぶ。それが、強い絆を生む力となる。

＜資料2＞は、夢のある学級文化を育むための学級目標、＜資料3＞は、キャッチフレーズを作った人権学級宣言について、話し合った結果をまとめたものである。こうした例のように、見える化を図った。



＜資料2＞



＜資料3＞

### 3 成果と課題

(1) 覇気と秩序のある学校」にすること

今年度になって、地域の方々から「あいさつをよくしてくれる」という声が聞こえてくるようになった。また、集会時の入場の仕方について、集会担当教員から注意を促す声が少なくなった。部活動では、今年度、7つの部が四国大会に、4つの部が全国大会に出場するなど、

活躍が見られた。授業を受ける態度も、昨年度は机に突っ伏す生徒が多数見受けられたが、今年度は事情のある一部の生徒に限られるようになってきた。

一方、不登校生徒や遅刻する生徒は、あまり学級活動に参加できないため、このような「自分を高める力」や「人とかかわる力」を伸ばす機会が少なく、効果が出ていない。全ての生徒に対して温かい学校づくりができるよう、さらに推進する必要がある。

(2) 生徒一人一人が「志」を持ち、「絆」と「自信」をもって教科学習や部活動等に励み、「自分を高める力」と「人とかかわる力」の備わった生徒を育てること

＜資料4＞は全国学力学習状況調査質問紙（「当てはまる」「どちらかといえば」の合計、対全国）である。この表から分かるように、本校の強みや弱みが、わずかながらだが、それぞれ伸びている。

質 問	H26	H27
将来の夢や目標をもっている【志】	-4.2	-4.0
いじめはどんな理由があってもいけない【絆】	+0.2	+2.3
友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意【自信】	-5.4	-4.3

＜資料4＞

(3) 感動のある教育活動の連続にすること

運動会の学級行進・部活動行進では、掛け声がかかり、たくましく整然とできている。部活動壮行会も生徒会役員等のがんばりで、力強い壮行会ができている。文化部も校内文化祭等で活躍し、年々保護者の参観が増えている。また、文化部が地域の老人介護施設やコミュニティ事業に呼ばれて公演、お茶会等を行う機会が増えている。

また、当日の取組だけでなく、そのための事前練習では自主的な早朝練習が行われることが多く、過程が充実しているために、当日の行事が感動をもって終えられている。学級活動での教師の支援の効果でもあるが、感動が翌年の感動につながり伝統になりつつある。

しかし、教師の献身的な勤務態度が前提となっているために多忙になりがちであり、伝統として定着するためには、今後も粘り強い取組を必要としている。



# 豊かでたくましい心を育てる生徒指導

生徒指導研究部会

## 1 研究主題について

昨今、「暴力」「いじめ」「不登校」等の様々な問題が発生しており、深刻な社会問題になっている。また、それらの生徒指導上の諸問題は、子供たちの人間関係に絡んだ不適応行動と捉えることができる。そこで、その問題を解決するためには、子供たち自身に豊かな人間関係を育てなければならない。

本部会では、昨年度まで「人間性豊かな心を育てる生徒指導の在り方」を研究主題として、研究・実践に取り組み、成果を上げてきた。これからは、生徒一人一人が自己肯定感（豊かな心）を持ち、仲間と共に困難を乗り越えていく力（たくましい心）を身につけていくことが求められている。そこで、「豊かでたくましい心を育てる生徒指導」を研究主題として、教員個々の生徒指導力を高めると共に、支援のあり方について研究を進めたい。

② 場所 三豊市立仁尾中学校

③ 内容 研究実践発表

ア 研究の実践

(ア)学習指導部会

- ・学習マナー10ヶ条の更新と指導の徹底



図1 仁尾中学学習マナー10ヶ条

## 2 研究の概要及び大会内容

(1) 夏季研修会

- ① 日時 8月20日(木)
- ② 場所 アルファあなぶきホール
- ③ 内容 講演会

平成27年度香中研生徒指導部会夏季研修会では、丸亀市教育委員会教育長中野レイ子氏を迎え、「子供たちの健やかな成長を願って」をテーマに講演を聴講した。これまでの経験を振り返りながら、少年院に入院する子供たちの共通点やその子供たちが持つ大人への不信感、更に少年院での生活や入院していた少女の作文など、具体的な出来事を紹介しつつ、更正に向かう少年たちとそれを周りで支える大人の関わりの大切さをご指導いただいた。

(2) 研究大会

- ① 日時 11月6日(金)

- ・ユニバーサルデザインを意識した授業
- ・校内検定と市販ドリルの活用
- ・家庭学習の習慣化に向けた家庭学習ノートの充実
- ・教科指導の中で取り組む「道徳性の育成」
  - 視点1：教科の本質や目標追求による道徳教育の基盤の確立
  - 視点2：内容や教材による道徳性の高まり
  - 視点3：学習活動を通して道徳実践の指導
  - 視点4：教師の態度や行動による感化

(イ)生徒指導部会

- ・黙働清掃の実施

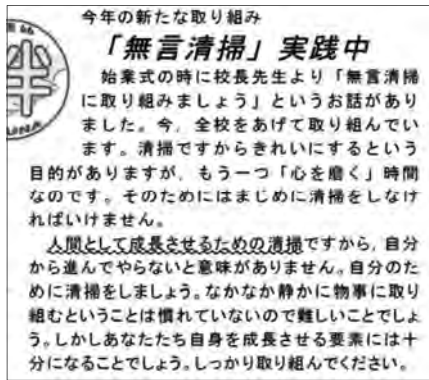


図2 2年団通信 (2014.4.18)

- ・生徒会活動の活性化
- ・生徒の声を進んで聴く教師集団



図3 時間割変更黒板と巡回ノート

#### (ウ)学年団部会

- ・学習パッケージによる取り組み  
さまざまな教育活動を組み合わせ、単元化した教育活動の集合体を『学習パッケージ』と定義し、全教職員が共通のねらいのもとに実践を進め、道徳性を高めている。  
基本的な流れとして、道徳アンケートを毎年実施し、アンケートの結果や生徒の現状に合わせて、パッケージ化する行事を通して身につけさせたい道徳項目を決定し、道徳の時間にそのねらいを生徒に意識させる。次に、そのねらいを受けて行事を実施する。行事が終われば生徒の感想や反省を生かして、次の道徳の時間へと流れを考えて指導していく。
- ・具体的実践例 (人権劇：3年団)  
昨年卒業した生徒たちも98.3%が「みんなで協力して何かをやり

遂げ、うれしかったことがあります」と答えて卒業していった。我々は、全員の生徒が「ある」と答えて卒業できることを目指して毎年取り組んでいる。

#### (エ)公開授業

- ・技術「材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作」  
1年1組 指導者 圖子正昭
- ・道徳「人を助ける仕事」  
1年2組 指導者 三好清香  
山田康子
- ・社会「近畿地方～環境保全の視点を中心にして～」  
2年1組 指導者 守谷篤人
- ・特別活動「この時どうする？私なら…」  
2年2組 指導者 矢野真衣  
福岡久仁彦

### 3 成果と課題

自己表現が不健全な形でしかできない子どもたちに気づき、受容することができれば、問題を持つ子どもの理解につながり、誠実に対応することができる。このような大人の姿勢が、子どもに信頼感を持たせ、改善のためのスタートラインとなる。更に、タイミングを逃さず、一人一人の生徒に向き合い、子どもたちがこの学校で良かった、この先生で良かったと思えるような信頼関係を構築しなければならない。この課題を達成するために、個人及び各学校において研修を重ねていきたい。

研究大会では、黙働清掃に生徒と全教職員が取り組んだことやこれまでの研究実践の継続と改善の視点で見直し、焦点化が図られたことなどから、全教職員の共通理解と協働意識の高まりが感じられた。そして、教職員のチーム力の高まりが、落ち着いて授業に取り組む生徒の姿に現れていた。このチーム力の構築が、今どの学校にも求められている生徒指導上の課題の一つであると痛感した。

# 生き抜く力を育むメディア教育の在り方

～ 学ぶ力の習得を目指して ～

メディア教育研究部会

## 1 研究主題について

今日の情報技術の発展により、我々は空間的、時間的制限を受けず、多様な情報や意見を得ることができるようになってきた。しかし、それらの情報はあまりにも膨大で、やり取りの方法も多種多様である。その中で、自分にとって本当に必要な情報を精査したり、的確に判断したり、うまく相手に伝えたりする力を備えなければ、かえって時間を浪費したり、トラブルに遭遇したりする可能性が高まる社会でもある。また、現時点の情報技術の知識や対応方法を学んでも、急速に進展する今日では、それらの知識はすぐに陳腐化してしまうことも少なくない。そこで、自分の考えを深化させる普遍的な活動（必要な情報を正確に調べ・比較したり、適切に表現・評価したりする活動）や、適切なコミュニケーション活動を通して、学び続ける力を身に付けることは、重要性を増すと考えられる。

## 2 研究の概要及び大会内容

### (1) NHK杯全国中学校放送コンテスト県予選

- ・日時 7月25日（土）
- ・場所 NHK高松放送局
- ・内容 CD・DVD審査

### (2) 夏季研修会

- ・日時 8月20日（木）9:00～12:30
- ・場所 e-とびあ・かがわ
- ・内容

- ① メディア教育研究大会の事前発表  
（さぬき・東かがわ支部）
- ② 講話 教育の現場におけるタブレットの端末の基本的な活用法
- ③ 実技研修 タブレット対応教材の紹介及び操作体験

### (3) 香中研メディア教育研究大会

- ・日時 11月5日（木）13:15～16:10
- ・場所 東かがわ市立引田中学校
- ・内容

#### ① 研究大会の概要

本校の教育目標は「生き抜く力を持った子どもの育成～小中連携教育の推進～」である。小中併設校として平成23年度から統合小学校と中学校が併設される施設一体型の小中連携校としてスタートした。小・中学校の教員が協力し合い、小学校から中学校へのスムーズな接続、9年間の連続した学びや人間形成を目指して、小中連携教育を目指している。9年間の連続した学びの一つとしてメディア教育も位置付けており、生徒は小学校段階でメディアツールの操作スキルを身に付けているが、中学校で求められる操作スキルとの差もあり、小中9年間で計画的に操作スキルを学習することが必要である。また、日常的にネットワークを使用している生徒も増加しており、使用時間や使用方法など、適切に利用するために必要な正しい判断力を身に付けることが必要である。そこで、ここでは「学ぶ力」を「多様な意見や情報のなかで自分の考えを深化させる力」として捉え、ICTを用いて効果的に身に付けさせ、積極的な学びにつなげるべく、研究を進めた。





学ぶ力を習得するために、研究を2つの側面からアプローチした。1つは学ぶ力を支える情報スキルの習得である。ここでは情報スキルを、機器の操作リテラシーと情報モラルの学習とした。最低限の操作技術を身に付けることで、学びの可能性は広がると考えた。また、安心して（特にネットワーク）情報を活用するためにはモラルの習得は不可欠である。もう一つは学びをより高めるメディア機器の活用である。情報スキルを土台に、メディア機器を活用して効率的・発展的な学習形態を探った。

## ② 公開授業

### ア 1年 保健体育

#### 器械運動「マット運動」



タブレットPCや大型ディスプレイを活用し、自分の動きを客観的に捉えたり、模範演技を参考にしたりできる環境を整えた授業を公開した。

### イ 2年 総合的な学習の時間

#### 「夢の実現に向けて～職場体験学習での発見と学びを発信しよう～」



小中の系統化したメディア学習及び総合的な学習の時間を通し、職場体験のレポートに基づいて小学生や同級生にプレゼンテーションを実施した。

### ウ 3年 学級活動

#### 「遅刻の連絡」



メディアツールの特徴を振り返り、遅刻の連絡という日常的な場面における適切な対応について考え、相手に配慮したコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指した授業を公開した。

## ③ 指導講話 香川県教育委員会

義務教育課主任指導主事 大浦 静二氏

## ④ 研究大会の成果と課題

小中学校でメディア機器を共有し、指導を系統化したことで、中学校では基本操作を習得する時間を省くことができ、効率よく発展的な学習活動を展開することが可能になった。また、情報モラルの生徒指導的課題について、小中の教員間で定期的に情報交換を行うようになり、共通認識を持って取り組むことができるようになった。メディア機器は生徒の学習活動や教師の指導を補助するツールであり、適切に活用すれば、効率よく授業を展開したり、生徒の好奇心を喚起したりすることができることが分かった。本校で最も活用されている道具の一つにホワイトボードがある。生徒一人ひとりの考えを一度に発表させたり、班ごとに意見を出し合ったりする「深める」「広げる」ツールとしては、最適なものと考えられる。同様の機能をタブレットPCでも果たすことはできるが、手軽に活用できる「シンプルさ」はホワイトボードが群を抜いていると思われる。これらのツールの適材適所を再確認しつつ、授業改善を進めることができた。

## 3 成果と課題

本年度は、近年研修の対象になりつつあるタブレット端末等を活用した授業が公開され、実際の教育の場での研修ができ、県内の各中学校の今後の参考となった。今後も夏季研修会や各支部でのさらなる研修の充実を図っていきたい。

# 豊かな人権文化の創造をめざす人権・同和教育

大会主題 自尊感情を育て、共に支え高め合い、差別解消をめざす生徒の育成  
～ 自他の大切さを認め、豊かな人権感覚を育てるために ～

人権・同和教育研究部会

## 1 研究主題について

人権・同和教育の積み重ねによって人権尊重の考えや理解は広がりを見せている。しかし、人権の大切さの理解が表面的になっていること、自尊感情がじゅうぶんに育っていないこと等課題もある。また、いじめ問題は深刻な社会問題になっている。自尊感情は望ましい自己形成や人間関係の構築に結びつくと考えられており、その育成は、他者を大切な存在と認めることができる豊かな人権感覚を醸成するために重要なものである。自分をかけがえのない存在と認め、自分を大切にできる生徒の育成に学校全体で取り組み、人権課題解決に向けた意欲や実践力の育成につなげていきたい。

## 2 研究の概要及び大会内容

### (1) 四国地区人権教育研究大会（徳島）

① 『五つの誓い「目を 声を 時間を 心を 願いをかけよう」』

坂出市立東部中学校 木下典和、藤川由香  
「五つの誓い」の実践を通して、教職員が一枚岩となり、生徒との信頼関係ができ、教員相互の生徒理解の幅を広げていった。そして、「東中ハートフルタイム」の取組を通して、生徒が学級や学年集団への安心感や信頼感が土台となり、お互いに認め合うことで一人ひとりの自尊感情が育まれていった。

② 『生徒が主体的にかかわり合うあたにかいなかまをもとめて』

高松市立木太中学校 野口佳子、桑島有紀  
「失敗してもいい、誰かのためにがんばってみよう」をモットーに、一人の生徒にしっかり寄り添う。その取組から、否定的に物事を捉えがちだった生徒が、なかまからのアプローチやともに活動していくなかで、自分に自信をもち、自分の思いを大

切にでながら自己表現ができるようになっていった。

### (2) 夏季研修会

① 『お互いを認め合い、高め合う集団作りをめざして』

高松市立桜町中学校 岩部 猛  
道徳や学年単位での全体学習を核として、行事や人権学習をつなぎ、お互いに支え合うなかまをめざして学年全体で取組を行った。その取組を通して、教師も生徒も変わっていった。

また、学校全体としても、一人ひとりを認め、ともに伸びようとする授業を各教科で行ったり、各行事への取組のねらいになかまづくりをあげたりしていった。

② 『あいさんとともに』

東かがわ市立白鳥中学校  
十川真由美、大路 仁  
足に障がいがあるあいさん（仮名）との関わりを中心にあいさんの変容に焦点をあてての報告であった。

中学校1年生からの体育祭、3年生の修学旅行や人権の集いを核に、子どもや保護者と真摯に向き合う中で、向き合うこと・関わることの大切さについて教職員が学んでいった。

### (3) 全国人権・同和教育研究大会（長野）

『五つの誓い「目を 声を 時間を 心を 願いをかけよう」』

坂出市立東部中学校 木下典和、藤川由香  
7月の四国地区人権教育研究大会に続いての報告で、「ハートフルタイム」・「かける活動」を中心に、質疑・討議をとおして、実践の交流を行うことができた。そして、はるこさん（仮名）を中心にすえた取組から生徒一人ひとりを大切にするとはいかか参加者で考えることができた。

(4) 香中研人権・同和教育研究大会の概要

11月6日（金）丸亀市立南中学校

① 研究主題について

自尊感情を育て、共に支え高め合い、差別解消をめざす生徒の育成

～自他の大切さを認め、豊かな人権感覚を育てるために～

② 研究組織

研究体制として、人権・同和教育四部会（教科部会、人権・同和問題学習部会、集会活動・全体学習部会、教員研修・家庭や地域との連携部会）を設け、各学年団とともに研究推進の核となる組織づくりを行い、研究を推進した。

③ 研究の内容

ア 教科部会

学力向上をめざし、生徒が主体的に学び考える力を養うために、分かる授業の展開と自尊感情を高める授業（学習スタイルの工夫改善）の研究を進めた。

イ 人権・同和問題学習部会

各学年の人権・同和問題学習の年間計画を立て、学習内容や資料の検討を行い、プログラムを作成した。相手の立場になって考え行動し、身近ないじめや嫌がらせに気づき対応できる人権感覚を磨かせることを目標とした指導案を作成した。

ウ 集会活動・体学習部会

全校生が同じテーマのもとに「集い、語り合い、共有する」ことを目標に他人事ではなく自分のこととして考えるという機会を設定する。

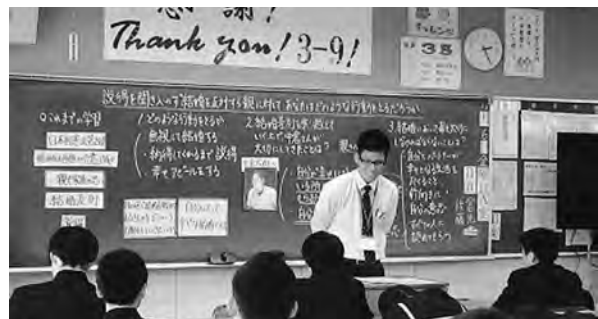
全体学習（全校集会）では、生徒一人ひとりが人権課題について考えを深められるよう、人権委員が演じる人権朗読劇を通してそれぞれが思いをまとめるという形にしている。人権劇をつくる中で、演者が台詞を考え、シナリオを練り直している。また、人権劇の後、演者が自分の言葉で感想を言うなど臨場感に溢れ、ねらいが伝わるような工夫に努めている。

エ 教員研修・家庭や地域との連携部会

教員向けの校内人権便りを発行して教職員間で研修の内容を共有できるように取り組んでいる。また、生徒・保護者を対象とした人権便りで人権集会や講演会の内容を報告したり、学年だより等で人権学習の内容や生徒の感想を掲載したりした。

③ 公開授業

学年	教科	題材名	授業者
1年	学活	固定観念から生まれる偏見や差別	横田義崇
2年	総合	就職差別の解消をめざして	林沙希恵
3年	総合	結婚差別をなくしていくために	湯浅雄貴
指導者	香川県教育委員会事務局人権・同和教育課主任指導主事		久保賢吾



【3年生 授業風景】

④ 成果

- ・同和問題学習を中心にすえ、学年ごとにテーマを設定し、同和問題に対する考えを深めることができている。
- ・人権意識調査を実施することで、生徒の実態を把握することができ、生徒の実態に基づいて、取組を進めることができている。

### 3 成果と課題

人権意識調査の結果を見ても、教師が授業改善や生徒の自尊感情を育む取組など、生徒に向き合う努力をした成果が次第に表れてきている。教師自身が人権を意識して取り組むことで、日常を振り返り多くの生徒の人権課題に気付くことができるようになってきている。

系統的に将来を見通して仕事や進路についての学習を進めているが、自分を見つめ、将来をどうしていくのか見いだせていない生徒への対応が課題である。



# 豊かな心と学ぶ力を育てる図書館教育

～ 本に親しみ、本を楽しみ、本を活用できる生徒の育成 ～

学校図書館研究部会

## 1 研究主題について

文部科学省は「平成24年度からの学校図書館関係の地方財政措置」として、「新学校図書館図書整備5か年計画」を定めた。そして、「生きる力」を育むという理念の下、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力の育成を重視する新学習指導要領が全面実施される中、「読書センター」「学習・情報センター」としての学校図書館の機能向上が必要である、ということを示している。

従来、学校図書館は、「本を読むところ」という認識が大多数を占めていたが、これからは「探求的な学習の場」として、生徒が主体的に課題解決をする場であるという認識が必要であり、探求的な学習を行うことを通して、豊かな学びを実現することが求められている。

さらに、全国学力・学習状況調査の調査結果を基に生徒の読書活動と正答率との関係を見ると、読書好きの生徒の方がそうでない生徒と比較すると正答率が高い傾向が見られる。

また、読書活動により著者や登場人物の心に自分の心を重ね合わせることで、他者を思いやつ心を育てるなど、読書活動は情操教育に欠かせない活動である。

しかし、生徒を取り巻く生活環境の変化は生徒の読書離れを助長しているのも事実である。

そこで、少しでも多くの生徒に読書の良さを伝え、本を手にしてもらうことを目的として、研究主題とサブテーマを設定した。

## 2 研究の概要及び大会内容

平成27年11月の研究大会に向けて、仲善支部学校図書館部会および研究発表校まんのう町立満濃中学校では、26、27年度と実践を重ねてきた。大会当日は、図書館担当職員の方に多数ご参加いただき、実践発表を行うことができた。

また、大会に先立ち11月5・6日に高知県で開催された四国学校図書館研究大会幡多大会で、「豊かな心を育てる読書活動」というテーマで善通寺市立東中学校松川友子先生が、仲善支部の実践を発表して下さった。

### (1) 夏季研修会

- ① 期日 平成27年8月20日（水）
- ② 場所 まんのう町立図書館
- ③ 内容 ・四国大会発表内容の検討  
・まんのう町立図書館見学  
・ワークショップ

（高松市学校司書による読書指導）

夏季研修会では、高松市立中央小学校学校司書の天谷史緒先生と高松市立一宮中学校学校司書の岩澤寛視先生にワークショップをしていただいた。

天谷先生には、「学校図書館における調べ学習支援」というテーマで、調べ学習の6つのステップや、引用の方法、奥付から必要事項を書き抜く参考文献の書き方などを教えていただいた。

また、岩澤先生には、「学校での読書指導の手法について」というテーマで、平和を考えるブックトークや、生徒が興味を持ちそうな絵本を使ったブックトークをしていただいた。どちらのワークショップも参加者が楽しめ、現場ですぐに活かせるものであったので、大変有意義な研修となった。

### (2) 研究大会

- ① 日時 平成27年11月13日（金）
- ② 会場 まんのう町立満濃中学校
- ③ 内容

## ア 公開授業

### 【公開授業1】（1年国語）

「絵本の読み聞かせに挑戦しよう」



### 【公開授業2】（2年英語）

「英語で読み聞かせしよう」



### 【公開授業3】（3年理科）

「宇宙に関する新聞を作ろう」



## イ 全体会

実践発表

善通寺市立東中学校

松川友子教諭

## 講演

ボイスパーソナリティー

よしかわ 真世 氏

「読み聞かせの可能性

～自己との対峙～」

実践発表では、仲善支部の実態と取り組み、成果や課題が発表された。仲善支部の各中学校の読書環境は決して恵まれているとはいえない。校舎の新築や改築に合わせて図書室が新しくなったところがあれば、逆に図書室が手狭になり十分な広さが確保できていない学校もある。学校司書が配置されていないので、図書委員の活動を工夫したり教室に本を運び込んだりする厳しい状況の中で、何とか読書の魅力や効用を伝えようと、職員が本と生徒を、生徒と生徒を繋ごうと努力している。

講演で講師を務めてくださったよしかわ真世氏は読み聞かせのボランティアをしている。園児対象には、絵を見せない読み聞かせを行っていた。絵がなくても、読み方ひとつで園児は興味を持って話を聞いたという。そして、この読み聞かせを続けるうちに、自分自身の読み聞かせのテーマが決まったことや読み聞かせで今まで気づかなかった自分の一面に気づくことなどが、内容に盛り込まれていた。

## 3 成果と課題

今回大会に向けての研究を進める中で、読書が好きな生徒が意外と多いこと、環境や場が設定されれば、本を手にしたり、本を楽しんだりする生徒もたくさんいることが分かった。真に本に親しませるには、時間と手間がかかるものである。しかし、子どもの読書活動は「人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことができないもの」と位置づけられているので、これからも生徒のためにできることを考えていきたい。

# これからの学校事務の果たす役割を求めて

～ 新しい時代の教育環境づくり ～

学校事務研究部会

## 1 研究主題について

現在、学校を取り巻く環境が複雑化・困難化する中で、教員に加え多様な専門性を持つスタッフを配置し、一つのチームとして学校の教育力を最大化しようという、「チーム学校」の取組が推進されている。

このような状況の中、私たち事務職員は、学校の中の専門スタッフとして、教員とは違った視点で学校全体を見渡し、教育活動が円滑に進み、教員が子どもたちの指導に専念できるように、学校が組織的に機能する仕組みを作っていかなければならない。

また、事務職員に多くの役割や責任が求められる中、高度化・複雑化した業務を経験年数に関係なく正確に遂行するために、事務職員自身も資質能力の向上をめざして組織化し、それぞれの強みを組織の強みとしていく仕組み作りが必要になってきている。

事務職員が組織的に課題解決していくために、事務職員に求められている役割とは何か、よりよい教育環境を整備していくためにはどのようにしていくべきかを共に考え、そして、多様化する様々な課題に対応していくためには、各市町の共同実施と連携して取り組んでいくことが課題解決につながるとして具体的な方策をいくつか提案することとした。

## 2 研究の概要及び大会内容

### (1) 夏季研修会

- 期日 平成27年8月20日（木）
- 場所 サンポートホール高松
- 内容 ・講演 「学校経営を支える学校事務職員の機能と役割」  
鳴門教育大学教授 久我直人氏  
・各支部実践発表

### (2) 研究大会

- 期日 平成27年10月13日（火）
- 場所 アルファあなぶきホール

○内容 ・研究発表、質疑応答、指導助言（指導助言者）

県教委事務局義務教育課主任 黒田健二氏  
高松市立紫雲中学校 校長 蓮井善視氏

### ①さぬきグループ（校務用パソコン班）

#### ○校務用パソコンの有効活用

ICTを活用した業務改善（業務の効率化）に取り組み、市内全ての小中学校教職員がアクセスできる共有フォルダの再構築を行った。市教委と協働することで通知文書や教員への周知資料が出された。具体的活動内容としては、共有フォルダの中に調査・報告様式フォルダを作成し様式を掲載。校務用パソコンでのメール送信方法のマニュアル作成。広報資料「ネットワークさぬき」の発行。「学校案内図」や「福利厚生フォルダ」作成。様式の検索・メ切・提出先確認等が容易にできるよう調査・報告様式一覧表を作成。

各小中学校において教職員アンケートを実施し、その結果から教員の意見を共有フォルダに反映し、パソコン本体・ネットワーク・ソフト等に対する市教委への要望を行い、迅速に対応していただいた。教員と市教委をつなぐ役割を果たすとともに、市教委や校長会とも連携を取りながら業務改善を進めたことで、効率化を図り、よりよい環境作りにつなげることができた。

### ②さぬきグループ（研修班）

#### ○研修プログラムの作成と事務職員の資質能力向上

事務職員の資質能力の向上が、間接的に教員への支援につながると考え、市内全ての小中学校で安定した事務処理を行えるように市教委と連携して組織的に研修プログラムを作成した。若年者向け研修と、事



務職員全員を対象とした全体研修をバランスよく計画した，基本となるプログラムを完成させた。全体研修では，学校教育課係長・主幹による講話を行い，その他にも統廃合予定の学校事務職員を対象とした統合に向けた研修や，若年者対象の先輩事務職員の学校訪問等も行った。市内事務職員を対象としたアンケートから，これらの研修が資質能力の向上につながったとの成果を得られた。研修を通して得た知識や成果を日常業務に反映すると共に，学校経営に参画するための基礎力が備わってきた。

### ③東かがわグループ

#### ○目標管理のためのチャレンジシートの活用と引田中学校の実践

学校事務職員に必要な資質や能力のひとつは，学校全体を見渡す経営的な考え方である。その育成のための具体的方策として目標管理の手法を取り入れた研究を進めてきた。

目標管理に取り組みやすくするために考えた様式がチャレンジシートである。学校組織の一員として連携や協働に取り組むことをチャレンジポイントとし，PDCAサイクルを身に付けた仕事を行う過程により，マネジメント能力を養いたい。共同実施で経過報告を行い，意見交換を通して知識や経験，スキルを吸収し合うOJT機能が発揮された。

「教育環境整備」を実践の共通テーマとし，財務担当者としての専門性を発揮し，学校運営や教育支援へとつなげていった。

### ④小豆支部

**全体研究**…郡全体の学校事務の標準化とシステム化に関する研究。システム班が担当し，連携や調整を行う。

**町別研究**…共同実施を活用し，土庄町・小豆島町の各グループで地域の特色や教育課題に対応して町教委と連携して取り組む。

### ○学校事務の標準化・システム化の推進

学校事務を標準化・システム化することで，どの学校でも同じレベルの事務処理が可能になり，教員も事務職員も業務改善を進めることができる。小豆支部における標準化・システム化のポイントを「事務の効率化・簡素化」「可視化と正確性」「連携と共同」「スキルアップ」とした。具体的な取組内容は，サービスの記載例集作成と追録の発行，学校日誌・校外勤務簿の様式改正，服務事務処理方法や手当認定台帳ファイルの統一など。

### ○土庄町グループの学校再編に向けた取組

平成27年度から土庄町内の4つの小学校が1つに再編された。学校諸費の口座振替に統一したシステムを導入し，幼小中と一貫した取り扱いが可能となった。学級費会計を廃止し教育活動費で一括処理。常備品一覧表を作成し，物品購入伺書による予算執行管理を行っている。備品移転時には学校と町教委，教員と事務職員が協働して作業を行った。

## 3 成果と課題

さぬき・東かがわ支部，小豆支部の研究発表は，それぞれの地域の実態に合わせた課題解決への取組である。その一つ一つが，平成27年7月に文部科学省が公表した『学校現場における業務改善のためのガイドライン』の中の，②業務改善の基本的な考え方と改善の方向性，③業務改善に取り組む教育委員会における先進的な実践事例，に添うものであった。私たち事務職員は，教育活動と学校運営をつなぐための事務機能を強化するとともに，すべての学校で子どもたちが安心して学べる教育環境を整備していかなければならない。そのためにも，学校が組織的に機能する仕組みを作り，それを校内から，共同実施，市町へと広げ，地域と連携して実践していくことで，その求められる役割を果たしていくことができると考える。

## 生きてはたらく力としての「習得から活用」に関わる対話型 学びの国語科授業づくり

国語教育研究部会

### 1 研究主題について

昨年度の香川県中学校教育研究会国語部会研究大会（さぬき市立長尾中学校）の学び合いという方向性は継続しつつ、その中で基礎・基本を生徒がしっかり身に付けるような授業づくりを目指し、本主題を設定した。

### 2 研究の概要

本年度は、主に夏季研修会で講演会、各支部の実践発表、ワークショップを開催した。授業づくりのワークショップ5講座は内容を一新した。今後の授業実践のための良い研修の機会となった。

#### (1) 研究委員会

坂出・綾歌支部を核に、研究の方向性と具体的な授業について検討を重ねた。

#### (2) 夏季研修会

##### ① 講演

吉川芳則先生（兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授）に「論理的思考し表現する力を育てる国語科授業づくり」の演題で講演をいただいた。

##### ② 各郡市発表

高松支部、三観支部の授業実践を発表した。

##### ③ ワークショップ

ア テーマ「ビジュアルツールで思考力を育てる」

講師 山本茂喜先生（香川大学教授）

イ テーマ「国語科研究授業のつくり方」

講師 佐藤明宏先生（香川大学教授）

ウ テーマ「やさしい国語科指導案のつくり方」

講師 藪内康則先生（香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事）

エ テーマ「書くことの授業改善～B問

題を生かして～

講師 高橋 渉先生（香川県教育委員会事務局西部教育事務所主任指導主事）

オ テーマ「香川大学教育学部附属坂出中学校の書写授業（全員参加型カリキュラムの実践演習③）」

講師 前田秀雄先生（岡山大学講師）



【夏季研修会での研修の様子】

#### (3) 委託研究部会

県教委研究委託を受け、「さぬきの授業基礎・基本」から「有効に働く教材・教具」の実践資料を持ち寄り、検討を重ね、まとめた。

#### (4) 若年研究部会

2～4経教員を対象に、附属坂出中、詫間中での授業研究会等、4回の研修を行った。また、郡市の指導の先生との徒弟関係組織を整備し、研修の機会をもった。

### 3 成果と課題

現在検討されている新しい学習指導要領では、教科をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのか、がより求められている。今後も本主題の方向性を追究し、質の高い研修と研究を進め、県全体の授業改善と指導力の向上を図っていきたい。

# 未来社会につなぐ社会認識の構築

## ～ 授業力の継承, そして創造 ～

社会科教育研究部会

### 1 研究主題について

社会科部会では、来年度、第41回四国社会科教育研究大会香川大会（中学校の部）を、丸亀地区で開催するにあたり、平成24年度全国社会科教育研究大会（高松大会）より「社会科教員の資質向上、授業力の継承と創造」に取り組んできた趣旨を引き継ぎ、本主題を設定した。



[グループ別討議会の様子]

### 2 研究の概要

本年度は、主体的に社会事象に関心を持つ生徒の育成を目指し、社会参画につながる力として「自分の考えを深化・修正する力」「自分の考えを他者に伝える力」に着目し研究を進めた。

#### (1) 研究委員会

研究主題について具体的な議論を深める全体提案、部会別提案（授業開発力部会、授業展開力部会、授業構成力部会）での質疑応答などを行った。また丸亀支部を中心に、研究授業の実践を重ねた。実践後は、研究委員会で議論を重ね、次への実践に活かせるようにした。

#### (2) 夏季研修会

##### ① 研究大会（丸亀）に向けて

〈全体提案〉

提案者：西山晋作 教諭（丸亀東中）

〈授業開発力部会〉

提案者：中川博文 教諭（丸亀南中）

〈授業構成力部会〉

提案者：御厨貴利 教諭（丸亀西中）

〈授業展開力部会〉

提案者：吉村 龍 教諭（綾歌中）

研究主題について全体提案、部会別提案（授業開発力部会、授業展開力部会、授業構成力部会）の質疑応答などを行った。

##### ② 各郡市の実践交流

各郡市から県の研究に沿った実践事例が報告された。資料やワークシートなどの教材及び指導過程が、若年者の先生方に参考となった。

##### ③ 講演

① 「『楽しい』授業を創造したいー探究する喜びを味わわせたいー」

香川県中学校社会科研究会

元会長 作花 典男 先生

② 「『教科書で』教える地誌授業の在り方」

文部科学省 国立教育政策研究所

教育課程研究センター研究開発部

教科調査官 濱野 清 先生

### 3 成果と課題

本年度は、社会参画につながる診断項目を追加し、授業力診断カルテにおいて成果を上げることができた。来年度、丸亀地区で開催される四国大会に向けて、香川の社会科教育の取組を発信し真価が問われることになる。

そこで、本年度課題として残った、社会参画につながる力（「自分の考えを深化・修正する力」「自分の考えを他者につたえる力」）を育成するため、県、各支部が連携して研究実践に取り組んでいきたい。



# 進んで自然とかかわり，探究し，学びを実感できる理科教育

～ 自然に進んでかかわり，探究し，科学的な資質や能力を育む理科教育 ～

理科教育研究部会

## 1 研究主題について

時代背景や生徒の実態，現行の学習指導要領を踏まえ，本研究会では，主体的な学びを通して，科学的に探究する能力や態度を養うとともに，理科を学ぶ楽しさを実感し，生涯にわたって科学に関心をもち学び続けようとする生徒を育成するための研究実践が必要であると考えた。そこで上記の研究主題を設定し，約10年間をかけて継続的に研究を推進している。

## 2 研究の概要

### (1) 夏季研修会

#### ① 講演

講師 東京学芸大学 理科教員高度支援センター 特命教授 川角 博 氏

演題 「不思議」から科学の考え方へ  
～正解を決めるのはだれか～

#### ② 研究内容の確認（丸亀大会に向けて）

全中理や県の研究主題および前回の高松大会の成果と課題を受け，丸亀大会の大会主題とを以下のように設定し，「学習指導」「観察・実験」「環境教育」「学習評価」の4領域で研究実践を進めていくことを確認した。

平成29年度香中研丸亀大会 大会主題  
「ともに自然にかかわり，探究し，科学的な資質や能力を育む理科教育」～言語活動を通して～

#### ③ 実験観察講習会

午後の前半は講習会Ⅰとして，物理，化学，生物，地学のそれぞれの4領域で2つずつの計8講座に分かれ，各支部の先生方による実験講習や教材作成が行われた。後半は講習会Ⅱとして，香川大学から4名，香川高専から1名，高松第一高校から2名，企業から1名の計8名の講師による講習が行われた。

### (2) 若年研修

若年教員の指導力向上をめざし，年間3回の若年研修を実施した。

#### ① 高松市立紫雲中学校

授業者 教諭 武藤 成継

2分野 課題 「クリは裸子植物か」

#### ② 香川大学教育学部附属坂出中学校

授業者 教諭 鷲辺 章宏

2分野 課題 「マツに気孔はあるのか」

#### ③ 高松市立牟礼中学校

授業者 田頭 翼

1分野 課題 「受ける放射線量を減らすにはどうすればよいか」

参加した先生の記述から，教材や課題設定の重要性，対話させるための教師の関わり，授業づくりに対する姿勢など，実際に授業を参観したり研究討議を行ったりすることで，多くことを学べた様子がうかがえた。

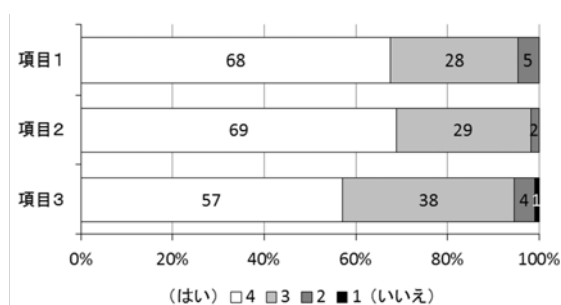
## 3 成果と課題

下図は，夏季研修会のアンケート結果である。

項目1：講演の内容は良かったか

項目2：午前の講座は自分の勉強になったか

項目3：午後の講座は自分の勉強になったか



今年度の夏季研修会が講演，講座ともに参加した先生方にとって有意義なものであったことがアンケート結果からもわかる。特に，川角先生による講演は，日本の理科教育の課題とそれを克服するために求められる授業のあり方について，具体例を示しながら話されており，今後の理科教育を考える上で多くの示唆に富むものであった。今後は本年度の成果を活かし，教育課程企画特別部会による論点整理なども参考にしつつ，丸亀大会に向けて各支部で研究実践を積み重ねていきたい。

# つながる瞬間

## ～ 主体的・協働的に学ぶ音楽学習をめざして ～

音楽教育研究部会

### 1 研究主題について

現行学習指導要領は平成20年3月に告示され、全面実施となって4年目となる。音楽科教育では、「豊かな力」をはぐくむという基本理念をふまえた上で、豊かな情操を養うという目標の具現化に向けてさらに研究を深めていくことが求められている。

平成26年11月20日の中央教育審議会の諮問の中で、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習や、そのための指導の方法を充実させていく必要があるとも述べられている。

本年度の研究主題の「つながる瞬間」とは、音楽の授業において、生徒が音楽の美しさに出会ったと感じたり、仲間と共に音楽の良さを共有することができたと感じたりする瞬間のことである。生徒にこの瞬間を体験させ、さらにこの音楽体験を自分の言葉で表現したり友だちと共有したりすることによって、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度を育成することをねらい、本研究主題を設定した。そして、表現及び鑑賞の授業において、生徒が主体的に課題に取り組み、仲間と共に解決していくことができるような授業づくりを進めていきたいと考え、副主題を「主体的・協働的に学ぶ音楽学習をめざして」と設定した。

### 2 研究の概要

#### (1) 研究推進の方向

人と音楽、人と人が「つながる瞬間」を大切に、主体的・協働的に学ぶ音楽学習をめざした授業づくりのために次の研究を推進する。

- 効果的な学習課題の設定  
学習目標に対する達成度が自覚でき

るような具体的な活動を含んだ課題にする。

#### ○ 学習形態の工夫

個からペアやグループ活動を展開し、協働的な活動を展開していく。その中で音楽体験を深めさせ最終的に再び個に返し、音楽のイメージをより明確なものにする。

以上のことをふまえ、表現活動では、イメージに合った表現を工夫させること、工夫について互いに語り合うことを通して、音楽そのものへの理解を深めていく。また、鑑賞活動では、感じたことを自分の言葉で表現させる。そして、友だちとの交流の中で、自分と違ったイメージや感じ方もあるということに気づかせたり、自分の考えを根拠をもって分かりやすく表現させたりしてより深く音楽を味わわせていく。

#### (2) 夏季研修会

今回の夏季研修会では講師に札幌市立柏丘中学校主幹教諭、萬 司先生をお迎えし、実践に基づいた講演をしていただいた。鑑賞領域においては授業で使用している音源や資料を紹介していただきながら、また表現領域の創作分野においては参加者がリコーダーや箏の演奏しながら、実際の指導や評価について学ぶことができた。

### 3 成果と課題

夏季研修会では、教材について新たな発見もあり、多くのことを学ぶことができた。今後、学ぶことの楽しさを伝え、確かな学力を身につけさせることができるよう、どのような教材でどのような授業構成をすれば成果が得られるか研究・実践を積み重ねたい。そして、平成29年度中国・四国音楽教育研究大会香川大会にむけて研究をつなげていきたい。

# 生活を豊かにする美術の学び

～ 生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりを目指して ～

美術教育研究部会

## 1 研究主題について

美術部会では、研究主題を「生活を豊かにする美術の学び」と設定した。思いを大切にし、主体的かつ意欲的に活動する生徒、自ら考え自らを表現することの喜びを感受できる生徒の育成を図る。そのために、表現や鑑賞の幅広い造形活動を通して、創造する楽しさを味わわせ、自分らしい見方や感じ方を尊重させ、美術を愛好する心を育てたい。また、豊かな生活を送るためには、発想力や創造的な技能を活用することも重要である。美術の学びが、豊かな感性を育み、よりよい生活を創造していくことにつながると考え、授業改善を中心とした研究に取り組む。

## 2 研究の概要

### (1) 各郡市の研究テーマ及び研究内容

【高松】生活を豊かにする美術の学び

○共通事項をふまえた授業づくり

◇「形」と「素材」で研究グループをつくり、教材研究及び討議を行う

【丸亀】より楽しく、より主体的に取り組ませる美術教育を目指して

○基礎・基本の定着を図る題材と指導方法の工夫

○豊かな表現力を身につけさせるための指導方法の工夫

◇授業実践

○主体的かつ意欲的に学習に取り組ませるための手立て

【坂出・綾歌】豊かな自己表現の喜びを味わわせる美術教育

○創造的な発想・構想力を身につけさせる指導の工夫

○形成的評価を生かした指導の工夫

◇研究授業、討議

【仲多度・善通寺】豊かなつながりを生み出す美術の学び

○意欲・関心を高める導入の工夫

○効果的な発問や個に応じた声かけ

○主題の意図や構想の工夫につなげる資料の作成

【三豊・観音寺】思考力、判断力、表現力を育てる美術のあり方

○基礎基本の定着を図る指導の工夫

○共通事項を生かした授業の構築

○生活と美術のつながりや美術文化への理解を深める指導の充実

【さぬき・東かがわ】生徒の意欲を引き出す教材の工夫

○意欲・関心を高める導入の工夫

○共通事項を生かした授業の構築

○生活と美術のつながりや美術文化への理解を深める指導の充実

【小豆】美術の基本的な能力を伸ばすための授業構成のあり方

○表現・鑑賞における言語活動の充実

○研究授業の参観、授業討議

### (2) 夏季研修会

香川大学 安東恭一郎教授による講演「handthinkとピアジェの発達理論」及びワークショップ「幾何学的な構成」「生物の共同制作」の実施。

## 3 成果と課題

今年度は、県の研究主題をもとに、各郡市で研究テーマを設定し、研究実践を行った。平成30年度の四国大会に向けて、これまでの研究成果のまとめを行い、新たな研究への一歩が踏み出せた。これを部会全体に広めながら、研究を進めていきたい。



# 生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方

保健体育教育研究部会

## 1 研究主題について

現在の保健体育科の現状・課題に対応していくため次の2つの視点を持ち、各地区でサブテーマを設定し、生涯にわたって運動に親しむ保健体育学習のあり方を探る。

- ① 学習指導要領の趣旨を反映させた学習となるための指導や支援及び評価
- ② 生徒が主体的に運動に取り組むことができる学習指導

## 2 研究の概要

### 【夏季研修会について】

本年度は日野宏先生(桐蔭横浜大学客員教授)をお招きして「体育理論の授業づくりと評価」の研修を行った。グループ演習では、教員同士が意見を交換しながら、指導案づくりを行った。また、保健体育科における関心・意欲・態度の評価の視点や見取り方等を学んだ。

### 【小豆地区】

「なかまとともに楽しく活動し、高め合う体育学習」を目指し、器械運動の研究授業を行い、言語活動を通して運動する楽しさを実感したり、グループ学習でタブレット端末を活用して技能を高めたりする授業研究を行った。

### 【さぬき・東かがわ地区】

昨年からの課題を踏まえ、体力づくりに関する講習会や体づくり運動の研究授業を行った。ワークシートの活用の仕方や個に応じた指導・支援、言語活動の在り方等を共有する場となり、様々な情報交換を行うことができた。

### 【高松地区南ブロック】

第2学年女子の「武道(剣道)」を題材に研究授業を行った。学習の導入の段階で、オリジナルDVDを視聴させ、生徒の意欲向上を図った。生徒は、身に付けなければならないことが明確になり、その後の活動も積極的に取り組むことができた。

### 【高松地区北ブロック】

体育理論「文化としてのスポーツの意義」の授業研究を行った。2020年東京オリンピック・パラリンピックを題材とし、スポーツが自分の人生を豊かにするきっかけとなる授業開発を行った。本実践を通して、生徒はスポーツの意義を考え、自分のスポーツライフについての興味・関心を高めた。

### 【坂出・綾歌地区】

「学ぶ喜びを味わわせる授業」というテーマを基に授業を行った。体育理論では、体育祭を通してなかまと運動する喜び、称賛される喜びの重要性に気付いた生徒や、剣道では、木刀による基本稽古法から、剣道の魅力を実感した生徒が多く見られた。

### 【丸亀市】

学び合い学習を通し、仲間とともに楽しく活動し、高め合う体育学習をテーマに研究を進めた。柔道の授業では、仲間と助言し合いながら、技を習得することが生徒の意欲を高めることをねらいとした。3人組のグループ活動から、技のポイントを教え合いながら技能の向上を図り、互いに安全面を配慮しながら活動することができるようになった。

### 【仲多度・善通寺地区】

各種目の指導内容を明確にし、基礎・基本を身につけるための教材の選択や場の工夫、学習形態のあり方などをもう一度見つめなおした。今年度はマット運動や柔道の研究授業、バドミントンの基礎技能の実技講習を行った。

### 【三豊・観音寺地区】

運動やスポーツを身近なものとして捉えることができるようになることをねらいとし、授業実践を行った。イメージを具体化させ、言語活動やグループ活動を充実させることで、基本的な知識や機能の定着・活用につながった。

# 社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する生徒の育成

## ～ 社会的自立の基礎を培う指導の工夫 ～

技術・家庭科教育研究部会

### 1 研究主題について

急速な社会の変化と共に生活の様式も変わってきている。生活様式の変化は、インターネット等のネット社会とコンピュータ化された携帯端末の普及など、高度情報化社会の発展によるところが大きい。食生活もネットワークを利用した食品の流通システムの変化や冷凍技術の進歩でかなり変化が見られる。また、核家族化や単身生活者の増加が今後の日本の生活様式の変化を加速すると考えられる。

このような社会や家庭が変化している中で今、求められているのが第2期教育振興基本計画に示されている「社会を生き抜く力」である。教育基本法で示された「生きる力」を一人一人に確実に身に付けさせることにより社会的自立の基礎を養うというものである。キーワードには「自立」、「協働」、「創造」が掲げられている。ここで示されている内容は、本教科のねらいでもある「社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指して、生徒が生活を自立して営めるとともに、自分なりの工夫を生かして生活を営むことや、学習した事柄を進んで生活の場で活用する能力や態度を育成する。」と合致するところが多い。

そこで、上記のことがらや教科の学習目標と生徒の実態を鑑みてこの研究テーマを設定し、研究を進めてきた。

### 2 研究の概要

本部会では、問題解決的な学習を社会や家庭の変化、生徒の実態や教科の目標に合わせて、継続的に手法を変えながら実践してきている。

本年度は、昨年度までの研究の成果と課題をふまえ、夏季研修会および研究委員会などで研究を進めた。

#### 【夏季研修会】

##### (1) 技術・家庭科共通

#### 研究討議・指導講話

平成30年の技術・家庭科中四国香川大会に向けての研究の方向性を聞いたり、質疑応答を行ったりして、研究テーマや指導技術の向上について討議を行った。

・発表者 高松市立桜町中学校 國重智喜

##### (2) 技術分野

#### 視察研修・研究討議・指導講話

参加者全員が香川県農業試験場の視察と担当者から学校で行う栽培におけるアドバイスや気をつけることなどを講義形式で教えていただいた。

・指導者 香川県教育センター

主任指導主事 氏家徹也先生

##### (3) 家庭分野

#### 研究討議・指導講話

研究テーマ、目指す生徒像、現在の課題等、今後の研究の方向性について、小グループで討議を行い、最後に全体で共有した。その後、実践課題や我々の研究の方向性等についての指導講話をいただいた。

・指導者 香川県教育センター

主任指導主事 高橋 恵先生

・指導者 香川県教育委員会高校教育課

主任指導主事 水原栄子先生

### 3 成果と課題

夏季研修会を通して、他の郡市の研究成果や自分以外の教員の教材や評価における工夫などを共有することができた。しかしながら、技術・家庭科の昨年度からの新しい研究テーマについての共通理解がまだ十分に行われていないことが実感された。次年度は、平成30年の技術・家庭科中四国香川大会に向けて教科の教員全員が互いに協力し、さらに研究内容を深められるよう進めていきたい。

# 英語を主体的に学び続ける生徒の育成

～ 言語活動のさらなる充実を目指して ～

英語教育研究部会

## 1 研究主題について

英語教育研究部会では「英語を主体的に学び続ける生徒の育成－言語活動のさらなる充実をめざして－」のテーマのもと、昨年度は「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能のバランスのよい総合的な育成を目指してきた。具体的には、「聞く」「読む」というインプットから、内容を理解しそれに対する自分の意見をもって「書く」「話す」というアウトプットへとつながる授業実践を行ってきた。その研究を土台としつつ、今年度は、4技能を有機的に結びつけた言語活動を通して、生徒が自分の将来と英語を学ぶことのかかわりを見いだしたり、英語を学ぶことの意味を実感したりするための研究を進めてきた。

## 2 研究の概要

### (1) 春季研究会

6月30日（火）、大川中学校・三木高等学校で開催された。本年度、中高あわせて120名を超える会員が、中学校と高等学校の授業を参観し、それぞれの授業のあり方について考えることができた。また、大妻女子大学教授の服部孝彦先生による講演は、今後の授業づくりの方向性を示す、示唆に富む内容だった。

### (2) 夏季研修会

7月31日（金）、三豊市文化会館マリノウェーブにおいて平成27年度香川県中学校英語科教員夏季研修会が開催された。県内英語科教員等203名が参加した。講演、海外研修報告に続いて「英語を主体的に学び続ける生徒の育成」というテーマをもとに、ワークショップ形式で研修を深めた。

#### ① 講演・ワークショップ

「こうすれば英語で授業ができる」とい

う演題で四国学院大学元教授の塩田寛幸先生にご講演いただいた。「英語で授業を行うため」のために、教科書の内容を、より深い視点から捉え直し、ペアやグループで交流を行い、授業構成について考える貴重な機会となった。

#### ② 海外研修報告

平成26年度日本人若手教員米国派遣業で研修された丸亀市立南中学校の牧山真澄教諭が、生徒が意欲的に英語を学ぶことができるような、実践的な手立てについて研修報告を行った。

#### (3) 若年研修会

2経～4経の若年教員の授業力向上に向けて附属高松中、飯山中において研究授業、討議、ワークショップ等を行った。若年教員からの授業や日常の悩みについて多くの質問がでた。多くの教員と交流することで、有意義な研修となった。

#### (4) 英語授業スキルアップ講座

10月17日（土）、11月21日（土）、1月23日（土）、2月27日（土）の4回、香川県教育センターにおいて平成27年度英語授業スキルアップ講座を開催した。県内英語科教員等のべ約150名が参加した。大学教授、教育課程調査官などから貴重な講話をいただいた。

## 3 成果と課題

4技能を関連づけながら言語活動のさらなる充実を図るために各技能を有機的に結びつけた言語活動ができた。今後はさらに英語を学ぶ意味を実感できるような言語活動の工夫や教師のかかわり方について研究テーマに迫りながら、提案につないでいきたい。



# 養護教諭の専門性の深化をめざして

## ～ 中学校の特有性をふまえた養護実践の構築 ～

養護研究部会

### 1 研究主題について

生活スタイルや急激な社会環境の変化に伴い、子どもたちの心身の健康問題が複雑化・深刻化してきている。ことに、思春期は、さまざまな健康課題が顕在化しやすい時期でもあり、中学校の養護教諭に求められる役割も広範多岐に及んできている。その課題解決にあたって、専門職としてのより高度な知識やスキルを備え、目的を明確にした養護実践を構築していくことが急務となってきている。しかし、養護教諭の世代交代が急速に進む中、多くの養護教諭が「中学校特有の保健室経営」に戸惑いを感じているのが現状である。

そこで、今年度から、研究主題を「養護教諭の専門性の深化をめざして ―中学校の特有性をふまえた養護実践の構築―」と設定し、専門職としての職務を足元から見直し、養護教諭に必要な知識やスキルを受け継ぎ、伝えるとともに、養護教諭同士の学び合いによる実践的研究を進めていくこととした。

### 2 研究の概要

- (1) 高松支部～時代のニーズに対応した保健室経営を通して～執務の周辺からの疑問・アイデア調査のまとめ、判断を迷う事例のシミュレーション研修、保健室における執務の効率化をめざした研究を進めている。
- (2) 坂出・綾歌支部～中学生の特性をふまえた保健室経営～宿泊学習・修学旅行における健康管理、救急法実技講習、中体連体育大会の救護活動を円滑に行うための研修に取り組んでいる。
- (3) 丸亀支部～養護教諭の専門性を生かした保健室経営～構成的グループエンカウンターや「スマイルチェック」、いのちのせいせい講演会等、お互いの実践を交流するとともに、救急法の若年研修を行っている。

- (4) 仲多度・善通寺支部～養護教諭の専門性を生かした保健室経営～基本的な健康観察の見直しや多種多様なケースについての事例検討をしながら研修や実践に取り組んでいる。
- (5) 三豊・観音寺支部～中学校の特有性をふまえた養護実践の構築～課題別研修として、フィジカルアセスメントのケース研修や食物アレルギー対応研修、中学生の特有性をふまえた保健指導の模擬授業、事例検討会に関する研修に取り組んでいる。また、「プチ先生の実践講座」や「保健室訪問」等の交流研修を重ねている。
- (6) さぬき・東かがわ支部～多様化した健康課題に対応する健康相談の実践と連携～医療の最新情報から保健室における応急手当の研修や健康相談に活用する資料作成及び協議、健康診断実施上の課題と情報共有に取り組んでいる。
- (7) 小豆支部～養護教諭の専門性を生かした保健室経営～養護教諭が行う個への支援や食生活習慣の啓発活動について研修している。
- (8) 夏季研修会～岡山大学大学院教育学研究科発達支援学系（養護教育）教授三村由香里先生に「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」と題して講演をいただいた。養護診断のためのアセスメントについて学び、日頃の救急処置を振り返るよい機会になった。

### 3 成果と課題

各支部において、養護教諭同士が連携を深め、専門的な知識・スキルや経験を交流できる研修に取り組んでいる。これからも、研修を工夫しながら、養護実践を積み上げていくとともに、養護教諭自身の資質向上を図り、専門性の深化をめざしていきたい。

# 豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育

道徳教育研究部会

## 1 研究主題について

近年、いじめを苦にした生徒の自殺や、青少年による非行、殺人事件などの深刻な問題が増加している。また、携帯電話やインターネットの普及などの情報化に伴い、新たな犯罪も発生している。これらの社会問題の根本には、生徒に確かな道徳性が根づいていないことも一因として考えられる。また現代の子どもたちの現状を見ると、規範意識が希薄化していること、生活習慣の確立が不十分なこと、また、自信の欠如や自らの将来への不安など、健全な自尊感情においても課題があることが、全国学力・学習状況調査のアンケートからも分かっている。

「体験活動等を生かした道徳教育の実施」は以前から学習指導要領の基本方針の一つとして掲げられているが、体験＝道徳（体験を道徳の時間に置き換えればそれでよい）という考えでは、生徒が豊かな人間性を身に付けることは難しい。また、道徳の授業が、教師からの価値の押しつけになると、頭では理解していても行動が伴わないために、ともすれば他人事、きれいごとの授業に陥りやすい。したがって生徒がうべだけでなく、自分のこととして考える、内面に根ざした道徳教育を創り上げる必要があると考える。

そのためには、道徳の時間における指導法の工夫を行うとともに、各教科や特別活動や総合的な学習の時間等と結びつけた「道徳の時間と他の教育活動との関連を図った道徳教育」を推進していくべきである。そして、それらを学校内だけでなく、地域社会や家庭との連携を図り、体験活動の場や指導者を地域に求め、広い視野で道徳教育をとらえ、生徒を囲む地域全体で生徒を育て、その働きかけを学校から発信していこうという考え方が大切である。

## 2 研究の概要

### (1) 研究の柱

- ①道徳の時間の指導の充実
- ②道徳の時間と他の教育活動との関連
- ③道徳教育と家庭・地域社会との連携
- ④道徳教育の推進体制と指導諸計画

### (2) 研究構想図



### (3) 夏季研修会（平成27年8月20日）

- ①基調提案
- ②課題別分科会

### (4) 編集部研修会…道徳教育編集

### (5) 研修部研修会…郷土資料集作成

### (6) 平成28年度研究大会（坂出中）に向けて

## 3 成果と課題

今年度は、来年度の坂出中の研究大会に向けて、具体的な計画に取りかかった。坂出中の研究内容に協力したり、地域別に郷土資料集の作成に取り組んだり、夏季研の課題別分科会の研究内容の検討等に積極的に協力したりして、研究を深めた。また、新学習指導要領の「特別の教科 道徳」に向けて、改善点を確認した。今後も地道な道徳教育の実践を各校で継続していくことと、対話や討論を重視した指導方法の改善に対応できる授業力を、一人一人の教員が身に付けていくことが今後の課題である。

# 未来をより健康に生きるための保健教育の創造

～ 生徒の気づきを促し、確かな健康観と実践力を育てるための指導の工夫 ～

学校保健研究部会

## 1 研究主題について

近年、社会状況や生活様式等の急激な変化に伴い、子どもたちの健康課題は複雑かつ多様化している。学校においてこれらの健康課題に対し、生徒自身が健康の大切さを認識し、健康課題に気づき、健康の保持増進に必要な知識や技能を習得するだけではなく、それらを活用し健康で安全な生活を営むための実践的な態度を身に付けさせることが必要であると考えた。

そこで本部会では、昨年度に引き続き「未来をより健康に生きるための保健教育の創造」を研究主題とし、平成28年度の研究大会に向けて担当支部を中心に実践研究を進めていくことにした。

## 2 研究の概要

上記の研究主題に迫るため、各支部でテーマを設定し研究実践を推進している。

### (1) 各支部での研究実践

【小豆】生きる力を培う学校保健のあり方～中学生の生活習慣と心身の健康について～  
【さぬき・東かがわ】未来をより健康に生きるための保健教育の創造～生徒の気づきを促し、確かな健康観と実践力を育てるための指導の工夫～

【高松】未来をより健康に生きるための保健教育の創造～生徒の気づきを促し、確かな健康観と実践力を育てるための指導の工夫～

【坂出・綾歌】健康に生きる力を育む学校保健を求めて～豊かな心の育成を目指した健康教育～

【丸亀】未来をより健康に生きるための保健教育の創造～生徒の気づきを促し、確かな健康観と実践力を育てるための指導の工夫～

【仲多度・善通寺】生活習慣の形成を図る保健教育の充実～がん教育の推進～

【三豊・観音寺】未来をより健康に生きるた

めの保健教育の創造～健康的なライフスタイルの確立をめざして～

### (2) 夏季研修会

本年度は8月20日（木）サンポート高松において夏季研修会を実施した。指導講話や模擬授業などの演習を取り入れた講演もあり、学び多き研修となった。

#### ① 指導講話

「学校保健・学校安全の諸課題について」

香川県教育委員会事務局保健体育課  
主任指導主事 高木 成明 氏

- ア 香川の子どもたちの現状
- イ 学校保健安全法の見方・考え方
- ウ 諸課題とその対応

#### ② 講演

「子どもの心に響くがん教育 香川県がん教育推進事業」～がん教育の現状と実施のポイント～

香川県健康福祉部健康福祉総務課  
主幹 佐野 昌美 氏  
主任技師 白川 佳代子 氏

- ア H26年度のがん教育の状況
- イ 授業実践での成果と課題
- ウ ゲストティーチャー派遣の留意点
  - (ア) がん教育の流れ
  - (イ) がん教育推進におけるQ&A
- エ 模擬授業

実際にDVDとワークシートを活用し、教員とゲストティーチャーによるがん教育の模擬授業を行った。

## 3 成果と課題

今年度は、本主題の継続研究2年目にあたり、昨年度の課題を踏まえ実践研究を深めることができた。次年度の研究大会に向け、各支部で成果と課題を明確にし、次年度の研究につなげていきたい。



# 長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育をめざして

～ 一人一人がいきいきと輝く教育活動のあり方 ～

特別支援教育研究部会

## 1 研究主題について

本年度も研究主題を「長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育をめざして」と設定した。これは子どもたち一人一人がいきいきと輝き、将来にわたって長期的な展望の下、多様なニーズに応じた支援を受けていくことを願ったものである。そのためには我々教員が就学指導や進路指導、各関係機関との連携、各家庭との日常的な情報交換などをしっかりとしていくことが担当者としての責務であるという基本的な考えに基づいて、日々の努力や研修を積み、資質の向上をめざす。さらに、生徒同士、教員と生徒、教員同士が共に高め合う、より質の高い特別支援教育をめざしている。具体的には、「教科指導」「各教科等を合わせた指導」「自閉症生徒の指導」「LD・ADHD等への支援」の4つの課題について各支部で研究を推進していくこととした。

## 2 研究の概要

### (1) 夏季研修会

①期日 平成27年8月20日(木)

②場所 綾川町立滝宮小学校他

③内容

ア 小中合同全体会

#### ・【小学校提案】

「子どもの困り感に寄り添う支援を求めて」

丸亀市立城北小学校 高木俊彦

#### ・【中学校提案】

「生徒理解を深める道徳指導のあり方」

東かがわ市立大川中学校

森本みゆき

#### ・【講演】

「障害のある子どもの将来を見据え

た教育現場の役割と支援の方向性～良い影響を積み上げる特別支援教育のあり方～」

四国学院大学教授 野崎晃広 氏  
イ 中学校分科会

#### ・【教科指導】

「長期的な視野に立った教科指導～一人一人の実態に合わせて～」

三豊市立豊浜中学校

田中聡子 西山奈代里

#### ・【各教科等を合わせた指導】

「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」「交流学习について」

琴平町立琴平中学校 安藤弥生

#### ・【自閉症生徒の指導】

「言葉を使おう」

高松市立桜町中学校 藤本剛志

#### ・【LD・ADHD等への支援】

「ADHD及び広汎性発達障害のある生徒に対する取り組み」

高松市立協和中学校 森澤詳元

## 3 成果と課題

夏季研修会では活発な質疑応答が行われ、研修を深めることができた。また、県教委事務局特別支援教育課主任指導主事 竹内典子先生、香大教育学部附属特別支援学校高等部主事 松本美加先生から指導・助言をいただき、さらに有意義な研修会となった。

来年度は、県大会も予定されているので会員相互に日々研鑽を積み、協力して研究を進めていきたいと考えている。また、夏季研修会は小学校との合同開催として連携を続けていきたい。

# ふるさとで心豊かに学び，新しい時代を切り拓く子どもの育成

～ へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした  
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして ～

へき地教育研究部会

## 1 研究主題

へき地の子どもたちは豊かな自然に囲まれ、地域の人々の温かさの中で育っている。一方、校区では少子高齢化が進み、日常生活や学校生活の中で同年代の子どもと切磋琢磨する経験が減ってきている。そのため子どもたちの特徴として、純朴ではあるものの指示待ち型で受け身であり、人間関係の固定化によりコミュニケーション力の向上という点において課題が感じられる。

このような現状を踏まえ、へき地教育研究部会では、21世紀を生きる児童・生徒に、地域の一員として「ふるさと」から学び、「ふるさと」を誇りに思う人間力豊かな子どもに育ててほしいとの思いで、上記の研究主題を設定した。

## 2 研究の概要

### (1) 夏季研修講座

- ① 期日 平成27年7月30日（木）
- ② 場所 高松市生涯学習センター  
まなびCAN
- ③ 内容  
ア 全体会（講演）「伊吹島の歴史と民俗」  
講師 三好兼光（伊吹島観光ボランティア）

講師の三好兼光氏は伊吹島で海上タクシー業を営みながら観光ボランティアとして活躍されている。伊吹島の歴史と風習等を調査研究され、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に先立つ天下人として知られる三好長慶と、その子孫と伊吹島の関わりについても豊富な知識を持っている。

三好氏の講演では、伊吹島のみならず瀬戸内海の島々では過疎と高齢化が進み人口減少が著しい。それゆえにその島独自の伝承が次の世代に伝わりにくくなっている。

島の子どもたちはこれまで苦勞をしてきた先

人たちの生き様を学ぶことで、知恵や勇気、明日に生きる元気をもらえるものと信じている。

また昔は、多くの遊びを通じて子ども社会としてのルールを体得してきたが、それらは大人になっても役立つものである。島の子どもたちには、ふるさとを大切に想う気持ちと同時に、島外に出て大勢の人たちと交流する機会をたくさん作ってほしいと、熱く語られた。

### イ 分科会

テーマ「学校の特性を生かした豊かな学びの育成」

- (ア) 【小学校提案発表】丸亀市立小手島小学校「主体的に学び 考えを高め合う子どもの育成」
- (イ) 【中学校提案発表】坂出市立櫃石中学校「ふるさとにおける学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな生徒の育成」－へき地・小規模校の特性を生かした指導の工夫－

### ウ 【グループ別討議会】

- ウ 指導・講評 香川県教育委員会事務局 義務教育課 桑原育子 主任指導主事
- ・国の動向について
  - ・小手島小・櫃石中の実践について
  - ・へき地教育の価値について

## 3 成果と課題

それぞれの学校の取り組みに地域の特性を生かした工夫が見られる。小規模校の利点は何より、一人一人の子どもにとって活躍の場が十分保障されることだと考える。桑原主任指導主事からの指導にもあったように、「子どもをよく見ること」の大切さを意識し、教育の原点と言われるへき地校にて、学習指導・生徒指導の両面において、それぞれの特性を生かした指導の工夫について今後も研究を深めていきたい。

# 自立し、自分らしい生き方のできる力を育てるキャリア教育

進路指導研究部会

## 1 研究主題について

子どもたちの進路をめぐる環境が大きく変化する中、学校教育全般をキャリア教育の視点に立って見直したとき、生徒一人一人が自分らしい生き方のできる力を育てるために、どのような指導が必要かについて研究を進める。

## 2 研究の概要

### (1) 第1回研修会

- ① 期日 平成27年6月11日（木）
- ② 場所 高松市総合教育センター
- ③ 内容 ・26年度事業報告  
・27年度事業計画

### (2) 夏季研修会，第2回研修会

- ① 期日 平成27年8月20日（木）
- ② 場所 香川県立ミュージアム
- ③ 内容  
ア 2地区の実践発表  
・高松の実践発表  
牟礼中学校 藤田 由紀子 教諭  
・小豆の実践発表  
小豆島中学校 濱口 浩一 教諭

#### イ 指導・講評・講演

「キャリア教育の一層の充実に向けて」

香川県教育委員会義務教育課

主任指導主事 山下 美紀 先生

- ④ 参加者 県内進路指導主事他 61名

### (3) 第3回研修会

- ① 期日 平成27年11月27日（金）
- ② 場所 高松市総合教育センター
- ③ 内容

#### ア 各地区の研究実践

#### 【小豆】

- ・職場体験学習事前指導の授業参観
- ・夏季研修会の発表内容の検討及び発表
- ・職場体験学習等の情報交換

#### 【さ・東】

- ・つばさキャビアセンター東かがわ市見学
- ・企業経営者講話・寒川高校への訪問
- ・職場体験学習等の情報交換

#### 【高松】

- ・進路指導（職場体験）の情報交換
- ・国土交通省四国地方整備局視察・見学
- ・講演「キャリア教育の実践」  
市教委指導主事 神原 隆司 先生

#### 【坂・綾】

- ・坂綾中研総合 研究組織の決定
- ・研究授業（白峰中），各校の実践報告
- ・研究授業（綾上中），各校の実践報告
- ・夏季研修会報告

#### 【丸亀】

- ・職場体験学習についての情報交換
- ・キャリア教育についての実践報告

#### 【仲・善】

- ・夏季研修会，多度津中学校校長講話
- ・各校キャリア教育の実践報告

#### 【三・観】

- ・職場体験学習についての実践報告
- ・キャリア教育についての情報交換
- ・次年度，香中研進路指導研究発表会
- ・高瀬中への各校の協力について

## 3 成果と課題

夏季研修会では，地域ボランティアへの参加や，生徒の現状をアンケート等の数値からキャリア教育の進め方について検証し，正しい社会観や職業観を育てる実践が報告された。

指導・講演では，社会の変化に対応するためには，将来を見つめ，問題に対応する力の育成が必要であるとの指摘があった。また，キャリア教育は，小中高の縦と学校・地域・家庭等の横の連携が重要であることや，PDCAサイクルで指導を改善していく必要性があげられた。



# 豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむ食育のあり方 ～ 学校給食における「生きた教材」を活用した指導力の向上をめざして ～

学校給食研究部会

## 1 研究主題について

平成17年に「食育基本法」が制定され、食育は生きる上での基本であり、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てると示されている。学校の教育活動全体において食育を推進していく中で、学校における食育の中心となる学校給食を生きた教材として活用して、望ましい食習慣の形成や郷土の食文化を理解するとともに、好ましい人間関係を築き、豊かな心とたくましく生きる力を育むことができると考え、本研究主題を設定した。

## 2 研究の概要

### (1) 夏季研修会

① 期日 平成27年8月20日（木）

② 場所 高松市国分寺会館

③ 内容

ア 講演 チェンジ！「学校給食」

チェンジ！「健康意識」

－子どもの体温上昇への挑戦－

講師 三豊市立辻小学校

校長 山下 昌茂先生

食と生活改善から免疫力・学力を高めるために、食育の推進の大切さについてお話をいただいた。辻小学校では早朝マラソンの実施、睡眠時間の確保、朝食の充実に1年間取り組むことで体温が改善された児童は44%、インフルエンザにかかる児童は200人減となった。給食で使用するだしを「あご、いりこ、昆布、椎茸」のミネラル豊富なものに変更、家庭での魚、豆、海藻、きのこ、発酵食品等の摂取不足を補うことなど、学校でできることを考え実践することが大切だとわかった。また、子どもが変化し行動することで、親

も行動を変化させ地域全体の改善にもつながるということを改めて感じた。

### イ 実践発表

○「生活実践につなぐ食育の取り組み」

東かがわ市立大川中学校

教諭 濱野史枝

マイライフスタルの生活調査をいかして「早寝、早起き、朝ごはん」の実践に向けた取り組みをしたり、市役所保健課が行う食生活改善の取組に参加したりしている。

○「大川学校給食共同調理場の食育・

地産地消の取り組み」

さぬき市立さぬき南中学校

栄養教諭 高尾隆子

発達段階に応じた食に関する指導を実践できる学校給食共同調理場の特性を生かし、学校給食を核とした食育と地産地消の充実を図ることが大切であると考えている。

○「土庄中学校の取り組み」

土庄町立土庄中学校

栄養教諭 杉浦千景

町内の漁業協同組合や土庄町地産地消推進協議会との連携をはかり、学校給食で地場産物を提供できるよう取り組んでいる。また、給食時間の放送で地場産物を紹介したり、栄養教諭が指導したりすることで、地元の農業や農産物について考える機会としている。

## 3 成果と課題

研修を通して各校での食育の推進に役立てることができた。今後も学校給食を生きた教材として活用して食育を推進し、学校、家庭、地域が連携して子どもたちの豊かな心と健康な体、そして自己管理能力を育てていきたい。

## IV 事業報告

# 本 部

### 1 平成27年度研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

### 2 活動方針等

#### (1) 活動方針

香川県教育委員会及び市町教育委員会、香川県中学校長会との連携を一層深め、大きく変革している学校教育を取り巻く様々な課題に対応できる実践的な教育研究を進め、県下中学校教職員の指導力や資質・能力の向上に努め、生徒の学力向上を図る。

#### (2) 運営体制

会長と支部長、各教科・教科外研究部会長との意思疎通を十分に図り、香中研全体が組織的かつ機動的に活動できるよう努める。

### 3 役員会及び運営委員会

#### (1) 第1回

役員会 5月19日(火) 14:00～16:25

運営委員会 5月28日(木) 14:00～16:25

#### (2) 第2回

役員会 7月21日(火) 14:00～16:25

運営委員会 8月4日(火) 14:00～16:25

#### (3) 第3回

役員会 11月19日(木) 14:00～16:25

運営委員会 12月1日(火) 14:00～16:25

### 4 各支部・部会の事務局長・会計長会

(1) 第1回 5月28日(木) 14:00～16:25

(2) 第2回 2月10日(水), 12日(金)  
13:00～17:00

### 5 調査研究活動

(1) 香中研の組織・運営・研究方針に関する研究協議

(2) 香中研研究大会及び夏季研修会の効果的な運営に関する研究協議

(3) 研究部会による研究推進及び研究報告書等の研究協議

(4) 香川県教育委員会からの委託研究

### 6 研究大会及び研修会

(1) 支部夏季研修会 7月29日(水)

(2) 教科夏季研修会 7月31日(金)

教科外夏季研修会 8月20日(木)

(3) 教科研究大会7部会

数学部会(中四国) 11月5・6日(木・金)

特別活動(県) 10月23日(金)

生徒指導(県) 11月6日(金)

メディア教育(県) 11月5日(木)

人権・同和教育(県) 11月6日(金)

学校図書館(県) 11月13日(金)

学校事務(県) 10月13日(火)

### 7 研究成果刊行物・その他

(1) 「研究紀要」第56号, 「香中研だより」

香川県教育委員会, 同各教育事務所, 香川県教育センター, 市町教育委員会, 県内大学, 各中学校会員に配布

(2) 「研究紀要」URL

<http://www.kachuken.jp/20151110-532/>

## 高松支部

### 1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

### 2 高松地区中学校教育研究会総会

総会は開催せず、部会ごとに紙面での報告  
内容 平成26年度事業報告・決算報告  
平成27年度事業計画・予算審議  
各部会（教科・教科外）事業計画  
役員選出、研究の進め方等

### 3 研究大会

(1) 平成27年度高松地区中学校教育研究大会  
（北ブロック）

期日 平成27年10月30日（金）

#### ○高松市立古高松中学校

主題 「確かな学力をもち、夢や目標の実現に向けて挑戦する生徒の育成 一主体的に考え学ぶ学習指導の工夫と目標達成に向けての支援を通して一」

(2) 平成27年度高松地区中学校教育研究大会  
（南ブロック）

期日 平成27年10月23日（金）

#### ○高松市立香川第一中学校

主題 「自他を大切にし、認め合える人間関係づくり 一特別活動を軸にして一」

### 4 教科研究会・教科外研究会

#### (1) 教科研究会

定期試験前日の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに研究授業及び実践研修等を行った。

#### (2) 教科外研究会

定期試験第1日目の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに実践研修等を行った。

### 5 研究成果の発刊

部会ごとに研究紀要を作成、各部会員及び研究大会への参加者に配布

## 丸亀支部

### 1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

### 2 主な研究会・行事

#### (1) 丸亀支部代表者研修会

日時 4月9日（木）14:00～16:00

会場 丸亀市立西中学校

内容 研究主題について検討  
年間計画、総会の打ち合わせ

#### (2) 総会並びに第1回部会

日時 4月28日（火）13:55～16:20

会場 丸亀市立飯山中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定  
教科部会（11部会）  
教科外部会（12部会）

#### (3) 市夏季研修会

日時 7月29日（水）9:00～

会場 丸亀市立西中学校他

内容 各教科で研究討議や現地研修会  
教科部会

#### (4) 市中学校総合研究会並びに第2回部会

日時 11月6日（金）13:50～16:30

会場 丸亀市立南中学校

研究主題

「主体的に学び、考える生徒の育成」

～わかる授業への展開と自尊感情を高める

授業をめざして～

内容 教科の研究主題に基づく公開授業  
研究討議

#### (5) 第3回部会

日時 12月9日（水）14:00～16:30

会場 丸亀市立東中学校

内容 本年度のまとめと来年度の計画

#### (6) 丸中研編集委員会

日時 1月7日（木）14:00～16:00

会場 丸亀市立西中学校

内容 研究内容のまとめと編集

### 3 研究成果の刊行

「研究紀要第47号」全員に配布

本年度の研究経過、内容、討議等のまとめ



## 坂出・綾歌支部

### 1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校力を高める研究会活動」

—確かな学力の定着と

豊かな心の育成をめざして—

### 2 主な研究活動

#### (1) 坂出・綾歌支部総会，教科，教科外研修会

期日 4月20日（月）

会場 宇多津町立宇多津中学校

内容 研究主題，研究計画，研究組織等の決定

教科部会 （11部会）

教科外部会 （15部会）

#### (2) 教科研修会

期日 6月5日（金）市・郡内各中学校

9月29日（火）市・郡内各中学校

内容 部会ごとに研究授業，提案発表及び情報交換等

#### (3) 教科外研修会

期日 6月18日（木）市・郡内各中学校

7月29日（水）市・郡内各中学校

10月27日（火）市・郡内各中学校

内容 部会ごとに研究授業，提案発表及び情報交換等

#### (4) 運営委員会

第1回 4月3日（金）東部中学校

研究方針及び事業計画の作成

第2回 1月29日（金）宇多津中学校

本年度の反省と来年度の計画及び研究日程案の検討

### 3 研究成果の刊行

「研究と実践 第51号」を会員に配布

## 小豆支部

### 1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

### 2 主な研究会・行事

#### (1) 小豆支部総会・部会研修会

日時 4月30日（木）13:30～16:00

会場 土庄町立土庄中学校

内容 総会（全体会）

教科部会（10部会）

教科外部会（12部会）

研究組織・研究主題・研修計画等の決定

#### (2) 教科・教科外研修会

##### ① 小豆支部教科研修会（統一日）

日時 6月17日（水）

会場 郡内各中学校

内容 研究授業・研究協議等

##### ② 教科・教科外研修会

日時 さみだれ方式（年間1～2回）

会場 郡内各中学校

内容 研究授業・研究協議等

#### (3) 小豆郡中学校教育研究大会

日時 11月9日（月）13:00～15:45

会場 土庄町立豊島中学校

研究主題

「心豊かで，確かな学力を身に付けた生徒の育成」～一人一人の生徒が「分かる，できる」を実感できる授業づくり～

内容 公開授業，全体提案，指導講話

### 3 研究成果の刊行

「研究と実践」第55号を全員に配付

入手先：小豆支部事務局（豊島中学校）

## さぬき・東かがわ支部

### 1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

### 2 主な研究活動

#### (1) さぬき・東かがわ支部全体会

期日 4月30日(木)

会場 さぬき市立さぬき南中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定

#### (2) 教科研究会

期日 6月11日(木)、9月24日(木)

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 研究授業、研究発表、研究討議等

#### (3) 教科外研究会

期日 7月29日(水)、10月22日(木)

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 研究授業、研究発表、研究討議、講話、実技研修、情報交換、現地研修等

#### (4) さぬき・東かがわ中学校教育総合研究大会

期日 10月30日(金)

会場 さぬき市立長尾中学校

主題 「学び合いを通してともに高め合う生徒の育成」～各教科における言語活動の充実～

内容 全体提案、研究授業、研究討議等

#### (5) 教科・教科外部長研修会

期日 ① 4月30日(木)

② 1月22日(金)

会場 ① さぬき市立さぬき南中学校

② さぬき市立長尾中学校

内容 ① 本年度のさぬき・東かがわ支部の研究会の在り方及び方向付け

② 本年度の反省と次年度の計画等

### 3 研究成果の刊行活動

「研究紀要」を全会員に配布(2月)

## 仲多度・善通寺支部

### 1 研究主題

「教職員一人一人の資質能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」  
—授業力向上のための指導と評価の充実—

### 2 主な研究活動

#### (1) 仲・善支部総会

日時 4月30日(木) 13:30~16:30

会場 善通寺市立西中学校

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定

#### (2) 教科等研究会

日時 6月18日(木) 13:30~16:30

会場 郡市内各会場校

内容 研究授業の実施と研究協議

#### (3) 教科・教科外研究会

日時 7月29日(水) 他 9:00~16:25

会場 まんのう町仲南公民館他

内容 研究協議・実践発表・情報交換

#### (4) 科等研究会

日時 8月21日(金) 8:40~12:00

会場 満濃農改センター

内容 小・中教科等研究員の研修会

#### (5) 教科等研究会

日時 10月23日(金) 14:00~16:25

会場 郡市内各会場校

内容 教科研究員による研究授業・研究協議

#### (6) 学校事務部会

日時 5月15日(金) 13:30~16:30

8月19日(水) 8:30~16:30

11月6日(金) 13:30~16:30

1月22日(金) 13:30~16:30

会場 琴平町総合センター他

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定  
事例発表・グループ研究・講演等

### 3 研究成果の刊行

各教科・教科外部会の実践を「研究紀要」第55号にまとめ、全会員に配布

---

---

## 三豊・観音寺支部

---

---

### 1 研究主題

「豊かな学びを求め、主体的・創造的に生きる生徒の育成をめざした中学校教育の実践」  
—教職員の資質能力と意欲の向上をめざす、各部会の創意ある実践的研究—

### 2 主な研究活動

#### (1) 三観支部総会、部会別研修会

- ①日時 4月21日(火) 15:00~16:30
- ②会場 三豊市豊中町農村環境改善センター
  - ・全体研修：研究活動の推進について
  - ・各部会：研究主題の決定、研究組織づくり、研究計画の作成

#### (2) 三観地区中学校教育研究会総合研究会

- ①日時 11月20日(金) 13:20~16:30
- ②会場等
  - ・三豊市立豊中中学校にて、社会、数学、理科、美術、保健体育、技術、家庭の7教科の研究授業と討議会を実施。学校のテーマは、「確かな学力をつけるための授業改善～基礎・基本を定着させるための学習指導～」である。
  - ・三豊市立和光中学校にて、国語、音楽、英語の3教科の研究授業と討議会を実施。学校のテーマは、「確かな力を身につけ主体的に学ぶ生徒の育成～基礎・基本の定着を図る指導方法の工夫を通して～」である。

#### (3) 三観地区中学校教育研究会学校事務部研究会(三観地区小学校研究会学校事務部研究会との共同開催)

- ①日時 11月17日(火) 13:20~16:30
- ②会場等
  - ・豊中町農村環境改善センターにて、「チーム力を生かした新たな学校事務の実現を目指して」

#### (4) 各部理事・主任研修会及び夏季研修会

- ・理事・主任研修会 年間3回実施
- ・夏季研修会 7月29日(水)実施

### 3 研究成果の刊行

「三観の教育」第45集 会員に配布(3月)

---

---

## 国語教育研究部会

---

---

### 1 役員・理事会

年間5回開催、研究組織及び内容の検討等

### 2 夏季研修会

期日 7月31日(金)  
場所 県社会福祉総合センター  
内容 講演、郡市発表、ワークショップ

### 3 委託研究部会

年間4回開催、「さぬきの授業基礎・基本」のあり方の検討とまとめ

### 4 若年研修部会

附属坂出中、龍雲中での授業研究会等、4回の研修

### 5 機関誌「国語科教育」の刊行

### 6 ホームページ

Googleとyahooで「香川県中学校国語教育研究会」を検索

<http://sites.google.com/site/kagawakokugo>

---

---

## 社会科教育研究部会

---

---

### 1 役員会、評議員会

年間5回開催、研究組織及び内容の検討等

### 2 夏季研修会

- (1) 日時 平成27年7月31日(金)
- (2) 場所 ホテルパールガーデン
- (3) 内容
  - ・研究提案および小グループ討議
  - ・実践交流会
  - ・講演

香川県中学校社会科研究会

元会長 作花 典男 先生

文部科学省 国立教育政策研究所

教育課程研究センター研究開発部

教科調査官 濱野 清 先生

### 4 第12回香川県小・中学校総合文化祭 社会科研究発表会

- (1) 日時 平成27年10月31日(土)
- (2) 場所 アルファあなぶきホール
- (3) 内容 各地区代表生徒による研究発表
- (4) 指導者 香川県教育委員会事務局義務教育課  
主任指導主事 北堀 宏 先生  
香川大学教育学部 教授 伊藤裕康 先生

### 5 研究成果の刊行

- (1) 「社会科研究」第56号
- (2) 「生徒の社会科研究」第53号



---

---

## 数学教育研究部会

---

---

### 1 総会

6月7日(日) 附属高松中学校  
・前年度事業報告, 決算報告, 事業計画等

### 2 中高連絡会

7月8日(水) 観音寺第一高等学校  
・高等学校教員による授業等

### 3 夏季研修会

7月31日(木) 三木町文化交流プラザ  
・授業検討及び研究発表等

### 4 中国・四国算数・数学教育研究大会

11月5日(木), 6日(金)  
・研究授業及び研究発表等  
・部会講演 愛知教育大学教育学部  
飯島康之先生

### 5 理事・代議員会及び研究委員会

2月20日(日) 附属高松中学校

### 6 「数学教育評論」第14巻1号の行刊

---

---

## 理科教育研究部会

---

---

### 1 役員・評議員・理事研修会

〔第1回〕平成27年5月16日(土)  
○前年度事業報告, 決算報告, 事業計画 等  
〔第2回〕平成27年12月5日(土)  
○事業・会計中間報告, 中四国大会報告 等  
〔第3回〕平成28年2月20日(土)  
○各郡市研究成果の発表 等

### 2 夏季研修会

期日 平成27年7月31日(金)  
場所 香川大学教育学部附属坂出中学校  
内容 講演, 研究内容の確認, 実験観察講習会

### 3 第67回香川県中学校生徒科学体験発表会

期日 平成27年11月7日(土)  
場所 高松テルサ  
最優秀

第1分野 高松市立高松第一中学校

第2分野 香川大学教育学部附属坂出中学校

### 4 若年研修

高松市立紫雲中学校(9月), 香川大学教育学部附属坂出中学校(10月), 高松市立牟礼中学校(11月)にて公開授業および研究討議を実施

### 5 機関誌「理科教育—中学校—」の刊行

---

---

## 音楽教育研究部会

---

---

### 1 企画会

〔第1回〕平成27年4月30日(木)

○事業・会計計画, 役員改選等

〔第2回〕平成27年12月4日(金)

○事業・会計中間報告, 研究推進等

### 2 理事会

〔第1回〕平成27年5月16日(土)

〔第2回〕平成27年12月12日(土)

### 3 研究部会

〔第1回〕平成27年8月18日(火)

○研究大会に向けて授業内容等検討

〔第2回〕平成28年2月21日(日)

○平成29年度中四国大会香川大会に向けて

### 4 夏季研修会

期日 平成27年8月18日(火)

場所 三木町文化交流プラザ

内容 学習指導要領の趣旨を生かした授業の進め方

講師 札幌市立柏丘中学校

主幹教諭 萬 司先生

### 5 研究成果刊行

機関誌「香川音楽52号」

---

---

## 美術教育研究部会

---

---

### 1 役員・評議員 研究主任会合

〔第1回〕5月23日(土)

平成26年度事業報告, 平成27年度事業計画, 予算案決議, 研究大会に向けて協議

〔第2回〕1月23日(土)

平成27年度実践報告, 平成28年度事業構想

### 2 夏季研修会 7月31日(金)

会場 高松市立高松第一中学校

内容 実技研修, 講演

### 3 総合文化祭展覧会 12月19日(土)～

12月24日(木) 作品審査・展示

### 4 研究成果の刊行「美術教室第52号」

授業実践の報告, 特色ある取組の報告, 各支部研究報告

---

---

## 保健体育教育研究部会

---

---

### 1 役員会

- (1) 4月24日(金) 高松国際ホテル
- (2) 3月1日(火) 高松市総合教育センター

### 2 地区研究研修会

- (1) 第1回 6月7日(日) 玉藻中  
部会組織・研究計画と夏季研修会の計画
- (2) 第2回 7月31日(金) 香川県教育センター  
夏季研修会の運営, 研究の情報交換
- (3) 第3回 9月6日(日) 玉藻中  
紀要の編集計画, 研究の情報交換
- (4) 第4回 1月17日(日) 玉藻中  
各支部研究報告及び今年度の反省  
次年度計画

### 3 夏季研修会

- 7月31日(金)  
講演・講話「体育理論の授業づくりと評価」  
保健体育課指導主事より指示・伝達

### 4 研究物の刊行

- 「県中保体だより」第56号

---

---

## 技術・家庭科教育研究部会

---

---

### 1 役員・理事研修会

- 〔第1回〕平成27年5月6日(水)  
○ 平成27年度事業計画, 予算案  
〔第2回〕平成27年10月18日(日)  
○ 事業状況確認, 研究内容検討  
〔第3回〕平成28年3月6日(日)  
○ 本年度のまとめと次年度計画

### 2 夏季研修会

- 期日 7月31日(金)  
場所 綾上農村環境改善センター  
内容 研究大会に向けての提案・指導など

### 3 技能競技大会

- 期日 7月26日(日)  
場所 サンポート高松 展示場

### 4 創造アイデアロボットコンテスト 香川県中学校ものづくりコンテスト

- 期日 11月28日(土)  
場所 サンポート高松 展示場

### 5 研究成果刊行

- ・機関誌「技術・家庭科教育」第56号

---

---

## 英語教育研究部会

---

---

### 1 理事会

- (1) 期日  
第1回 5月17日(日)  
第2回 6月27日(土)  
第3回 12月6日(日)  
第4回 2月13日(土)
- (2) 会場 高松シティホテル

### 2 春季大会

- (1) 期日 6月30日(火)
- (2) 会場 大川中学校・三木高等学校

### 3 夏季研修会

- (1) 期日 7月31日(金)
- (2) 会場 三豊市文化会館マリンウェーブ

### 4 第65回香川県中学校英語弁論大会

- (1) 期日 10月3日(土)
- (2) 会場 読売新聞社高松総局ホール

### 5 英語授業スキルアップ講座

- (1) 期日  
第1回 10月17日(土)  
第2回 11月21日(土)  
第3回 1月23日(土)  
第4回 2月27日(土)
- (2) 会場 香川県教育センター

### 6 機関誌「中英香川52号」発行

---

---

## 養護研究部会

---

---

### 1 役員・代議員・研究部員研修会

- (1) 平成27年5月15日(金) 香川県教育会館
  - ① 平成27年度役員紹介
  - ② 平成27年度事業計画案・予算案審議
  - ③ 平成27年度研究の進め方について
  - ④ 夏季研修会, 中体連救護活動等について
- (2) 平成28年2月5日(金) 香川県教育会館
  - ① 平成27年度事業報告・会計報告
  - ② 平成27年度研究の反省とまとめ
  - ③ 次年度研究の進め方について

### 2 夏季研修会

- (1) 日時 平成27年7月31日(金) 9:00~12:00
- (2) 場所 丸亀市総合文化会館(アイレックス)
- (3) 内容 講演  
「養護教諭に必要なフィジカルアセスメント」  
岡山大学大学院教育学研究科  
発達支援学系(養護教育)  
教授 三村由香里先生

### 3 研究成果刊行

- 「研究紀要36号」

## 道徳教育研究部会

- 1 評議員・理事・研究委員会  
5月9日(土)
  - 研究組織づくり 夏季研修会の持ち方等2月20日(土)
  - 平成28年度の研究について
  - 今年度の成果と課題等
- 2 研究部研修会  
5月9日(土) 8月5日(水) 8月20日(木)  
11月21日(土) 3月5日(土)
  - 郷土資料等の検討～学習指導案の作成等
  - 平成28年度の研究大会に向けて
- 3 夏季研修会  
日時：8月20日(木)  
会場：パールガーデンにて  
内容：全体会 基調提案 課題別分科会
- 4 編集部研修会  
8月5日(水) 9月5日(土)
  - 「道徳教育41号」の編集～校正
- 5 研究成果刊行  
「道徳教育第41号」

## 特別活動研究部会

- 1 役員・理事研修会  
(1) 期日 平成27年6月6日(土)  
(2) 場所 高松テルサ
- 2 夏季研修会  
(1) 期日 平成27年8月20日(水)  
(2) 場所 高松テルサ  
(3) 内容
  - ① 各支部の実践発表  
課題 「よりよい生活や人間関係を築く力を育む特別活動の創造」～自他を大切にし、認め合える人間関係づくりをめざして～
  - ② 講演  
講師 香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 福田 宏志 氏  
内容 「各郡市の取組への指導・助言と特別活動における国の方向性」
- 3 研究大会  
(1) 期日 平成27年10月23日(金)  
(2) 場所 高松市立香川第一中学校  
(3) 内容 公開授業, 基調提案, 指導講評

## 生徒指導研究部会

- 1 役員研修会  
〔第1回〕平成27年5月26日(火)
  - 事業・会計報告, 役員改選  
事業案・予算案・各支部情報交換 等〔第2回〕平成27年11月17日(火)
  - 事業報告と反省  
次年度の研究について・情報交換 等
- 2 夏季研修会  
期日 平成27年8月20日(木)  
場所 アルファあなぶきホール  
内容 講演
  - 講師 丸亀市教育委員会  
教育長 中野レイ子氏  
「子どもたちの健やかな成長を願って」
- 3 研究大会  
期日 平成27年11月6日(金)  
場所 三豊市立に尾中学校  
内容 研究授業, 講演
  - 講師 学校法人山口精華学園  
理事長 岡村精二氏  
「あなたの一言が子どもの未来を拓く」

## メディア教育研究部会

- 1 評議員・理事研修会  
〔第1回〕平成27年5月15日(金)
    - 事業計画・会計報告, 役員改選〔第2回〕平成28年2月5日(金)
    - 事業・会計報告, 次年度構想等
  - 2 夏季研修会  
期日 平成27年8月20日(木)  
場所 e-とぴあ・かがわ  
内容
    - ① メディア教育研究大会の事前発表(さぬき・東かがわ支部)
    - ② 講話 教育の現場におけるタブレットの端末の基本的な活用法
    - ③ 実技研修 タブレット対応教材の紹介及び操作体験
  - 3 研究大会  
期日 平成27年11月5日(木)  
場所 東かがわ市立引田中学校  
内容
    - ① 公開授業
    - ② 授業討議
    - ③ 講評
- URL <http://www.kagawa-edu.jp/kachuj01>



---

---

## 人権・同和教育研究部会

---

---

### 1 部会総会

日時 5月8日(金) アルファあなぶきホール  
内容 事業報告, 事業計画, 役員改選  
四人研・全人教大会報告内容の検討

### 2 部会研修会

[第1回] 日時 4月9日(木)

内容 事業計画

[第2回] 日時 9月18日(金)

内容 香同教大会・部会研究大会

[第3回] 日時 2月26日(金)

内容 反省, 次年度の計画

### 3 夏季研修会

日時 8月20日(木) サンポートホール高松  
内容 香同教大会報告内容検討, 指導助言

### 4 香中研人権・同和教育研究大会

日時 11月6日(金) 丸亀市立南中学校  
内容 公開授業, 研究討議, 指導助言

---

---

## 学校保健研究部会

---

---

### 1 役員・理事研修会

(1) 第1回

日時 平成27年6月11日(木)

場所 高松市総合教育センター

内容 ①事業・会計報告 ②事業計画

(2) 第2回

日時 平成28年2月9日(火)

場所 高松市立古高松中学校

内容 ①各支部研究報告 ②研究集録

### 2 夏季研修会

日時 平成27年8月20日(木)

場所 高松サンポート(54会議室)

内容 講話「学校保健・学校安全の諸課題」  
講演「子どもの心に響くがん教育  
香川県がん教育推進事業」

### 3 研究成果刊行

平成27年度 研究集録

---

---

## 学校図書館研究部会

---

---

### 1 学校図書館部会研修会

[第1回]

期日 平成27年5月21日(木)

場所 高松市総合教育センター

内容 事業・会計報告及び事業計画, 役員改選

[第2回]

期日 平成27年10月27日(火)

場所 香川県教育センター

内容 読書感想文の審査

### 2 夏季研修会

期日 平成27年8月20日(木)

場所 まんのう町立図書館

内容 まんのう町立図書館見学  
ワークショップ  
(高松市学校司書による読書指導)

### 3 研究大会

期日 平成27年11月13日(金)

場所 まんのう町立満濃中学校

内容 公開授業  
実践発表  
講演

### 4 研究成果刊行

香川県読書感想文集61号

---

---

## 特別支援教育研究部会

---

---

### 1 役員・評議員・理事研修会

[第1回] 平成27年5月28日(木)

○ 事業・予算計画, 役員改選, 夏季研計画

[第2回] 平成28年2月20日(土)

○ 事業・会計報告, 研究成果刊行物配布

○ 次年度の事業・予算計画

### 2 夏季研修会

期日 平成27年8月20日(木)

場所 綾川町立滝宮小学校他

内容

<小中合同全体会>

小学校&中学校実践発表

講演 「障害のある子どもの将来を見据えた教育現場の役割と支援の方向性～良い影響を積み上げる特別支援教育のあり方～」

講師 四国学院大学教授 野崎晃広

<中学校分科会>

課題別提案発表(4テーマで開催)

### 3 研究成果「研究紀要」の刊行

## へき地教育研究部会

- 1 へき地教育研修総会  
期日 平成27年5月12日(火)  
場所 銀星旅館  
\* 台風のため開催できず
- 2 へき地校長研修会・へき地教育研修会  
(1) 第1回  
期日 平成27年7月30日(木)  
内容 研究紀要編集計画, 原稿依頼  
(2) 第2回  
期日 平成27年9月18日(金)  
内容 研究紀要作成  
(3) 第3回  
期日 平成28年1月15日(金)  
内容 研究紀要校正
- 3 県へき地教育研修講座  
期日 平成27年7月30日(木)  
場所 高松市生涯学習センターまなびCAN  
内容 講演 「伊吹島の歴史と民俗」  
分科会 小学校発表 小手島小学校  
「主体的に学び考えを高め合う  
子どもの育成」  
中学校発表 櫃石中学校  
「ふるさとにおける学びを生か  
し, 新しい時代を築く心豊かな  
生徒の育成」
- 4 研究成果刊行  
「香川のへき地教育」発行

## 学校事務研究部会

- 1 学校事務研修会  
期日 平成27年5月26日(火)  
場所 高松テルサ  
内容 事業報告・会計報告・役員改選  
事業計画・予算案審議  
各支部研修計画等
- 2 夏季研修会  
期日 平成27年8月20日(木)  
場所 サンポートホール高松  
内容 (1) 講演 「学校経営を支える学校事  
務職員の機能と役割」  
鳴門教育大学教授 久我直人氏  
(2) 各支部実践発表
- 3 研究大会  
期日 平成27年10月13日(火)  
場所 アルファあなぶきホール  
内容 (1) さぬき・東かがわ, 小豆支部研究  
発表  
(2) 質疑応答, 指導助言  
(指導助言者)  
県教委事務局義務教育課主任 黒田健二氏  
高松市立紫雲中学校校長 蓮井善視氏

## 進路指導研究部会

- 1 役員・理事研修会  
【第1回】  
(1) 期日 平成27年6月11日(木)  
(2) 内容  
① 平成26年度事業報告・会計決算報告  
② 平成27年度役員選出  
③ 平成27年度事業計画及び予算案審議  
【第2回】  
(1) 期日 平成27年8月20日(木)  
(2) 内容  
① 夏季研修会について  
② 今後の活動の在り方について  
【第3回】  
(1) 期日 平成27年11月27日(金)  
(2) 内容  
① 平成27年度研究実践のまとめ  
② 平成28年度の研究の方向について
- 2 役員・理事研修会  
(1) 期日 平成27年8月20日(木)  
(2) 場所 香川県立ミュージアム  
(3) 内容 2地区の実践発表, 講演

## 学校給食研究部会

- 1 役員・理事研修会  
(1) 第1回 平成27年6月19日(金)  
内容 研究主題・夏季研修会等について  
(2) 第2回 平成28年1月28日(木)  
内容 各支部活動状況・次年度の計画
- 2 夏季研修会  
日時 平成27年8月20日(木)  
場所 高松市国分寺会館  
内容  
講演 「チェンジ! 「学校給食」  
チェンジ! 「健康意識」  
-子どもの体温上昇への挑戦-」  
三豊市立辻小学校  
校長 山下昌茂 先生  
実践発表(さぬき・東かがわ, 小豆)
- 3 研究成果刊行  
研究紀要発行

## V 組織等

### 本 部 役 員

役員名	氏名	勤務校	職名	郵便番号	学 校 所 在 地	電話番号	備 考
会長	環 修	三豊市立三野津中学校	校長	767-0032	三豊市三野町下高瀬720番地	(0875) 72-5209	
副会長	宮本 浩	高松市立古高松中学校	校長	761-0102	高松市新田町甲190番地1	(087) 841-1577	
副会長	香川 雅之	綾川町立綾南中学校	校長	761-2103	綾歌郡綾川町陶5593-1	(087) 876-1187	
副会長	高田 義文	三豊市立豊中中学校	校長	769-1506	三豊市豊中町本山甲148-1	(0875) 62-2071	
事務局次長	井上 光司	高松市立塩江中学校	校長	761-1611	高松市塩江町安原上231番地1	(087) 893-0032	
事務局次長	福田 伸也	高松市立塩江中学校	教頭	761-1611	高松市塩江町安原上231番地1	(087) 893-0032	
研究部次長	菅原 正己	坂出市立岩黒中学校	校長	762-0072	坂出市岩黒240番地	(0877) 43-0104	
研究部次長	小林 理昭	香川大学教育学部附属坂出中学校	副校長	762-0037	坂出市青葉町1番7号	(0877) 46-2695	
研究部次長	赤熊 俊二	香川大学教育学部附属高松中学校	副校長	761-8082	高松市鹿角町394番地	(087) 886-2121	
監 査	木谷 直充	丸亀市立綾歌中学校	校長	761-2406	丸亀市立綾歌町栗能東431	(0877) 86-2006	
監 査	前田 和義	琴平町立琴平中学校	校長	766-0003	仲多度郡琴平町五條661	(0877) 73-4181	

### 本 部 役 員

No	支 部	支 部 長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号
1	高 松	宮本 浩	古高松	761-0102	高 新田町甲 190-1	(087) 841-1577	大松雄一郎	山 田	761-0434	高 川島東町 1257-1	(087) 848-0071	大高 康紀	山 田	761-0434	高 川島東町 1257-1	(087) 848-0071
2	丸 亀	木谷 直充	綾 歌	761-2406	丸 綾歌町栗能東 431	(0877) 86-2006	大塚 浩二	丸亀西	763-0033	丸 中府町3-11-1	(0877) 22-2251	吉田 時義	綾 歌	761-2406	丸 綾歌町栗能東 431	(0877) 86-2006
3	坂 出	香川 雅之	綾 南	761-2103	綾 綾川町陶 5593-1	(087) 876-1187	坂東 洋子	宇多津	769-0210	綾 宇多津町3302	(0877) 49-0818	坂東 洋子	宇多津	769-0210	綾 宇多津町3302	(0877) 49-0818
4	小 豆	岡下 朋平	豊 島	761-4661	小 土庄町豊島 家浦810	(0879) 68-2030	林 富美彦	豊 島	761-4661	小 土庄町豊島 家浦810	(0879) 68-2030	林 富美彦	豊 島	761-4661	小 土庄町豊島 家浦810	(0879) 68-2030
5	さぬき 東かがわ	松木 國彦	白 鳥	769-2705	東 白鳥757-2	(0879) 25-1365	橋本 征治	長 尾	769-2301	さ 長尾東954	(0879) 52-3182	大路 仁	白 鳥	769-2705	東 白鳥757-2	(0879) 25-1365
6	仲多度 善通寺	前田 和義	琴 平	766-0003	仲 琴平町五條661	(0877) 73-4181	井上 勝之	琴 平	766-0003	仲 琴平町五條661	(0877) 73-4181	井上 勝之	琴 平	766-0003	仲 琴平町五條661	(0877) 73-4181
7	三 観音寺	高田 義文	豊 中	769-1506	三 豊中町本山甲 148-1	(0875) 62-2071	香川浩一郎	詫 問	769-1101	三 詫問町詫問 5796-1	(0875) 83-2108	森 清司	豊 中	769-1506	三 豊中町本山甲 148-1	(0875) 62-2071



部 会 役 員

No	部 会	部会長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号
1	国語	津山 勝義	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131	川田 英之	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	大西小百合	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
2	社会	中西 宣二	東 部	762-0003	坂 久米町2-7-46	(0877) 46-2159	山城 貴彦	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	大和田 俊	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
3	数学	田窪 克久	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937	三好 一生	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	山野 景子	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原1110	(0877) 98-2027
4	理科	下川 恭徳	一 宮	761-8084	高 一宮町1185-1	(087) 885-1664	若林 教裕	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	山田 康子	仁 尾	769-1406	三 仁尾町仁尾辛38-2	(0875) 82-2119
5	音楽	白井 隆	男 木	760-0091	高 男木町1988	(087) 873-0506	堀田 真央	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	石原 美帆	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360
6	美術	沼野 伸二	善 西	765-0013	善 文京町4-1-1	(0877) 62-2340	金丸 高士	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	栗島 克浩	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937
7	保健体育	川口 一	引 田	769-2901	東 引田545-1	(0879) 33-3101	増田 一仁	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	倉山 佳子	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121
8	家庭	山田 博司	上	761-2203	綾 綾川町山田上甲1180	(087) 878-2020	渡邊 広規	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	池下 香	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
9	英語	香川浩一郎	詫 間	769-1101	三 詫間町詫間5796-1	(0875) 83-2108	明田 典浩	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	伊賀 梨恵	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
10	養護	石田 謙二	三 豊	768-0101	三 山本町辻876	(0875) 63-3028	秋山 雄子	観音寺	768-0061	観 八幡町2-10-7	(0875) 25-2440	高橋貴美子	高 瀬	769-0011	三 高瀬町下勝間2725-1	(0875) 72-3161
11	徳	下地 芳文	土 庄	761-4121	小 土庄町瀨崎甲1936	(0879) 62-0054	岡 昌代	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937	茂中 則子	太 田	761-8073	高 太田下町1800	(087) 866-1370
12	特別活動	津山 勝義	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131	藤原 悟	玉 藻	760-0066	高 上福岡町714-1	(087) 861-8196	安藤 愛	一 宮	761-8084	高 一宮町1185-1	(087) 885-1664
13	生徒指導	香川浩一郎	詫 間	769-1101	三 詫間町詫間5796-1	(0875) 83-2108	齊藤 唯司	高 瀬	769-0011	三 高瀬町下勝間2725-1	(0875) 723161	笠嶋 裕志	三 豊	768-0101	三 山本町辻876	(0875) 63-3028
14	メアィ了育	水口 実	大 川	769-2604	東 西村1510	(0879) 25-2175	三谷 和男	豊 浜	769-1602	観 豊浜町和田浜717	(0875) 52-2152	永井 言枝	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原1110	(0877) 98-2027
15	人権・教育	江口 俊史	志 度	766-2101	さ 志度2214-4	(087) 894-0148	富田 明	大 川	769-2604	東 西村1510	(0879) 25-2175	富田 明	大 川	769-2604	東 西村1510	(0879) 25-2175
16	学図書館	香川 尚子	琴 南	766-0202	仲 まんのう町中通888	(0877) 85-2104	森下由香利	善 西	765-0013	善 文京町四丁目1-1	(0877) 62-2340	下村 綾佳	満 濃	761-0022	仲 まんのう町吉野下957	(0877) 73-2107
17	学校保健	宮本 浩	古高松	761-0102	高 高松市新田町甲190-1	(087) 841-1577	茶園奈緒美	鶴 尾	761-8052	高 松並町639-1	(087) 867-3382	多田 良子	三 木	761-0612	木 三木町永上31	(087) 898-1547
18	特別支援教育	矢野 尊章	観中部	768-0040	観 柞田町1237	(0875) 25-3622	宇野 誓起	高 瀬	767-0011	三 高瀬町下勝間2725-1	(0875) 72-3161	吉田 栄子	高 瀬	767-0011	三 高瀬町下勝間2725-1	(0875) 72-3161
19	へき地	菅原 正己	岩 黒	762-0072	坂 岩黒240	(0877) 43-0104	大森 正隆	伊 吹	768-0071	観 伊吹町549	(0875) 29-2102	寒川 義文	櫃 石	762-0073	坂 櫃石585-17	(0877) 43-0204
20	学校事務	下地 芳文	土 庄	761-4121	小 土庄町瀨崎甲1936	(0879) 62-0054	浜中 美樹	小豆島	761-4431	小 小豆島町片城甲44-1	(0879) 82-2136	朝倉 卓輝	引 田	769-2901	東 引田545-1	(0879) 33-3101
21	進路指導	岡下 朋平	豊 島	761-4661	小 土庄町豊島家浦810	(0879) 68-2030	富永 和雄	鶴 尾	761-8052	高 松並町639-1	(087) 867-3382	濱口 浩一	小豆島	761-4431	小 小豆島町片城44-1	(0879) 82-2136
22	学校給食	大松雄一郎	山 田	761-0443	高 川島東町1257-1	(087) 848-0071	長野 進也	鶴 尾	761-8052	高 松並町639-1	(087) 867-3382	横井 百里	高松一	760-0068	高 松島町2-14-5	(087) 832-0311

## 平成27年度 予算

1 会員数 2,151 人

2 収入と支出

### 【収入】

会員会費	2,925円 × 2151人	6,291,675 円
助成金		100,000 円
繰越金		1,211,952 円
利息		500 円
合計		7,604,127 円

### 【支出】

各郡市支部	1,425円 × 2151人	3,065,175 円
各教科・教科外部会		1,580,000 円
研究大会補助金	35,000円 × 0 + 50,000円 × 10 + 80,000円 × 1	580,000 円
本部事務局費		2,378,952 円
合計		7,604,127 円
※本部事務局費（予備費）		878,952 円

### 3 支部別会員数および配分金額

支部番号・支部名	平成26年度会員数	平成27年度会員数	配分金
1 高松支部	936	943	1,343,775 円
2 丸亀支部	234	234	333,450 円
3 坂出・綾歌支部	239	245	349,125 円
4 小豆支部	71	74	105,450 円
5 さぬき・東かがわ支部	192	167	237,975 円
6 仲多度・普通寺支部	182	180	256,500 円
7 三豊・観音寺支部	305	308	438,900 円
合計	2,159	2,151	3,065,175 円

・各支部への配分金は1,425円 × 会員数

・県大会については教科35,000円・教科外（養護含む）50,000円、四国以上の大会は80,000円の助成金とする。

・養護部会を含め研究大会がない教科外部会は36,000円の基礎配分、研究大会がある部会は144,000円の基礎配分とする。

・事前研究費として養護部会及び教科外（道徳を除く）に50,000円を助成する。

## 4 部会配分金

部会名	基礎配分金	研究大会補助金				合計
		事前研究	県大会	四国大会	全国大会	
1 国語	56,000				56,000	
2 社会	56,000				56,000	
3 数学	56,000		80,000		136,000	
4 理科	56,000				56,000	
5 音楽	40,000				40,000	
6 美術	40,000				40,000	
7 保健体育	56,000				56,000	
8 技術・家庭	48,000				48,000	
9 英語	56,000				56,000	
10 養護	36,000				36,000	
11 道徳教育	36,000				36,000	
12 特別活動	144,000	50,000			194,000	
13 生徒指導	144,000	50,000			194,000	
14 メディア教育	144,000	50,000			194,000	
15 人権・同和教育	144,000	50,000			194,000	
16 学校図書館	144,000	50,000			194,000	
17 学校保健	36,000	50,000			86,000	
18 特別支援教育	36,000	50,000			86,000	
19 へき地教育	36,000				36,000	
20 学校事務	144,000	50,000			194,000	
21 進路指導	36,000	50,000			86,000	
22 学校給食	36,000	50,000			86,000	
部会配分金	1,580,000	200,000	300,000	80,000	2,160,000	
支部配分金	3,065,175				3,065,175	
本部事務局(旅費等)	1,500,000				1,500,000	
本部事務局(予備費)	878,952				878,952	
合計	7,024,127	200,000	300,000	80,000	7,604,127	





# 香川県中学校教育研究会 部会運営細則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会〇〇研究部会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は〇〇に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は、香川県内中学校に勤務する教職員をもって組織する。

(事 業)

第5条 本会は、前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- 1 中学校〇〇に関する研究活動の育成と振興
- 2 中学校〇〇に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 3 研究会、講演会、講習会の開催
- 4 その他必要な事業

(役 員)

第6条 本会は、会長1名および副会長〇名をおく。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第7条 会長および副会長は、理事会において選出する。

- 1 役員任期は1年とする。  
ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

第8条 本会に、会計監査2名をおく。

- 1 会計監査は、会計事務を監査する。
- 2 会計監査は、理事会において選出する。

(事 務 局)

第9条 本会事務局をおく。

- 1 事務局には、事務局長、会計長をおく。
- 2 前項の職員は、会長が委嘱する。
- 3 事務局長には、本会の事務を処理する。
- 4 会計長は、本会の経理を処理する。

(経 理)

第10条 本会の経費は、本部よりの配分金をもってこれに当てる。  
本会経費の運用は、年度当初の予算をもって執行する。

(会 計 年 度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

附 則 この細則は、昭和36年5月1日より実施する。

## 香中研研究大会開催地区割り当て計画

(○：県大会 ○：四国大会・中四国大会 ☆：全国大会)

### 【教科】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
国語			A○			D			C		A○				E			※
社会				A☆		E		B○				D			C			A
数学			D				A○		C			E		☆ 8月	B			A
理科			E○			A			B		C○				A			E
音楽			A			B			E○			A			D			A○
美術		E○				A				A○		D			B			A
保健体育			B○			A			D			A○			E			C
技術・家庭	B○		C			E				A○		A			D			B
英語			D		A○				B				A○		A			E
養護			A			C			E			B			A			D

### 【教科外】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
道徳教育			A☆		D			C			E○			B		A○		
特別活動	B			C			A			D			E			A		
生徒指導	A			D			E			C			A			B		
メディア教育		C○		E			D			B○			A			A		○
人権・同和教育	C			A			B			E			A			D		
学校図書館			C○		A		B				E○		D			A		
学校保健		C			E			A			B			A				D
特別支援教育			B○		A			D			A○			E				C
へき地教育	①			②○							①				②			
学校事務			I				II				III				IV			
進路指導		A			B			E			A			C				A
学校給食		B			C			A			B			A				E

(備考) A = 高松, B = 丸亀・仲多度・善通寺, C = 坂出・綾歌, D = 小豆・さぬき・東かがわ  
E = 三豊・観音寺

へき地教育のブロック割り①高・小・直, ②丸・坂・三観の2ブロック

へき地教育及び学校事務は、香小研と共同開催のために、4年ごとの別ローテーション

## 香中研とはこのような団体です

### Q1 香川県中学校教育研究会（香中研）とは、どのような組織ですか？

- A
- 香中研は昭和36年に発足した研究団体で、結成以来約50年の歴史と伝統を誇っています。
  - 県内全域を網羅する7つの支部と、中学校教育のほぼすべての教育活動を網羅する22の教科・教科外研究部会を有しており、研究活動等を通して香川県中学校教育の振興を目的としています。
  - 県内すべての市・町立中学校、県立中学校、国立大学法人附属中学校・特別支援学校と、一部の県立特別支援学校、私立中学校に勤務する多くの教職員が加入しており、平成27年度の会員数は2,151名です。

### Q2 香中研はどのような活動をしているのですか？

- A
- 各支部（7支部）単位で、地域や各学校の実態に即した研究活動等を行っています。
  - 支部会員や県内全域の会員を対象とした研修会や研究大会を定期的に行い、先進的な研究実践を発表したり日頃の取り組みについて情報交換したりするなどして、研究の成果を広く県下に普及させています。
  - 研究大会等に向けた研究実践の情報交換等を通して、支部内はもとより広く県内会員相互の親睦が深められるとともに、互いに切磋琢磨しながら研究を進めたり研究発表の機会を提供したりすることが、中学校教職員としての仲間づくりにもつながっています。
  - 支部や県レベルで計画的・組織的に事業を展開しているため、香川県の中学校教育の充実や教職員全体の資質・能力の向上に大きく貢献しています。
  - 四国大会や全国大会を本県で開催したり、大会等で研究発表したりする際にも、香中研が推進の中核となっています。

### Q3 教育委員会や中学校長会との関係はどのようになっていますか？

- A
- 香中研は、香川県教育委員会や市町教育委員会、中学校長会との密接な連携の下に運営されています。
  - 香川県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言を得ながら、授業研究など学校現場における日々の教育実践を重視した研究活動等を進めています。
  - 教育委員会の教育の基本理念や教育方針、重点項目、教育施策等を具現化する研究活動等を進めています。

### Q4 教育委員会等から香中研に対して、具体的にどのような支援や配慮がされているのですか？

- A
- 市・町立中学校の香中研会員には、関係市・町から会費の半額程度が教育関係団体補助金として援助されています。これにより、会員の実質負担額が大幅に軽減されています。
  - 香川県教育委員会から研究委託を受け、研究活動に対する指導・助言を得るとともに、研究活動費の支援も受けています。

※ 組織等に関する詳細については、会則をご覧ください。



## 編集後記

「研究紀要第56号」を発刊する運びとなりました。原稿を執筆していただいた皆様に心から感謝申し上げます。

さて、本年度は、7つの部会で教育研究会が開催されました。役員並びに関係各位のご支援・ご協力に厚くお礼申し上げます。

なお、本年度は、次のようなことを実践しました。

- ① 香川県中学校教育研究会のホームページで本部・各支部・各部会で情報発信を行いました。
- ② すべての教科で若年研修を年2回実施し、本年度からすべての学校に開催案内をすることで若年教員以外の参加も可能としました。
- ③ 香川県教育委員会研究団体等研究委託事業として、「子どもに学びのときめきを～子どもをその気にさせる教材・教具の工夫～」をテーマに、各教科の特性に応じた教材・教具を研究し、具体的な授業実践を行い、実践事例をまとめました。
- ④ 平成28年度以降の予算編成について見直しを行いました。

本会が会員各位の資質向上にさらに寄与できますよう、今後とも夏季研修会、研究大会の一層の工夫改善を努めていただきますことをお願い申し上げて、編集後記といたします。

香川県中学校教育研究会「研究紀要第56号」

編集委員長 井上光司（本部事務局長）

編集委員 福田伸也（本部事務局次長）

香川県中学校教育研究会

研究紀要

第56号

発行日 平成28年3月14日

編集・発行 香川県中学校教育研究会  
事務局 高松市立塩江中学校  
〒761-1611  
高松市塩江町安原上231番地1

香中研研究紀要  
URL <http://www.kachuken.jp/20151110-532/>

印刷所 株式会社美巧社  
高松市多賀町1丁目8番地10

表紙デザイン：高松市立紫雲中学校 教諭 橋本 武生



香川県中学校教育研究会

The Society of Education for Junior High, KAQA WA

2015

